

小松市内遺跡発掘調査報告書 XV

薬師遺跡

島遺跡

矢崎宮の下遺跡

2020.3

石川県小松市埋蔵文化財センター

例 言

- 本書は、石川県小松市において小松市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 試掘調査・発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、文化庁補助金を受けて実施した。
- 対象となった埋蔵文化財、並びに調査地・調査原因・調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。

【薬師遺跡 12 次】(平成 27 年度)

- 【調査地】 石川県小松市矢崎町
【調査原因】 個人住宅
【試掘調査】 2015. 6. 24
【試掘担当】 岩本信一
【調査面積】 123m²
【調査期間】 2015. 7.21 ~ 2015. 8.18
【調査担当】 宮田 明

【薬師遺跡 13 次】(平成 27 年度)

- 【調査地】 石川県小松市矢崎町
【調査原因】 店舗併用住宅(個人)
【試掘調査】 2015. 7. 7
【試掘担当】 岩本信一
【調査面積】 192m²
【調査期間】 2015.10.19 ~ 2015.11.20
【調査担当】 宮田 明

【薬師遺跡 14 次】(平成 28 年度)

- 【調査地】 石川県小松市矢崎町
【調査原因】 個人住宅
【調査面積】 190m²
【調査期間】 2017. 1.10 ~ 2017. 1.31
【調査担当】 坂下義規、宮田 明

【島遺跡 4 次】(平成 28 年度)

- 【調査地】 石川県小松市島町
【調査原因】 個人住宅
【試掘調査】 2016. 3.17
【試掘担当】 岩本信一
【調査面積】 54m²
【調査期間】 2016. 5.16 ~ 2016. 5.27
【調査担当】 宮田 明

【島遺跡 5 次】(平成 28 年度)

- 【調査地】 石川県小松市島町
【調査原因】 個人住宅
【試掘調査】 2016. 5. 2
【試掘担当】 岩本信一
【調査面積】 159m²
【調査期間】 2016. 5.24 ~ 2016. 6.10
【調査担当】 宮田 明

【矢崎宮の下遺跡 3 次】(平成 28 年度)

- 【調査地】 石川県小松市矢崎町
【試掘調査】 2017. 2. 3
【調査担当】 坂下義規、岩本信一
【調査原因】 共同住宅
【調査面積】 163m²
【調査期間】 2017. 2.27 ~ 2017. 3.24
【調査担当】 坂下義規、宮田 明
4. 発掘調査は、臨時作業員を雇用して実施した。
5. 出土品整理並びに実測・製図は、臨時作業員を雇用して、令和元年度に実施した。
6. 道構の実測及び写真撮影は、各発掘調査担当者が行い、遺物の写真撮影は宮田が行った。
7. 本書の執筆・編集は宮田が担当した。
8. 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて小松市埋蔵文化財センターで一括保管している。

凡 例

- 本書に示す座標は平面直角座標 VII 系、世界測地系(測地成果 2011)に準拠している。
- 本書に示す方位は、特に断りがない限り、座標北である。
- 高度は標高(T.P.)で表示している。
- 本書に示す土色は、マンセル表色系に準拠している。

目 次

I	位置と環境	1
II	薬師遺跡発掘調査	13
III	島遺跡発掘調査	28
IV	矢崎宮の下遺跡発掘調査	40

写真図版 1 ~ 6

報告書抄録

第Ⅰ章 位置と環境

第1節 地理的環境

1 市勢と沿革

小松市は石川県南部に位置し、東西約20km、南北約30kmに跨る市域は面積371.13km²を測る。南は大日山(1368m)で福井県勝山市と境し、ここより約5km北に位置する鈴ヶ岳(1174m)を水源とする梯川流域を包括した市域をなしている。市域の大半は山岳地であり、約11万人を数える人口の大部分は北西部の狭長な平野部に集中している。近世城下町として成立し、商業都市として発展した小松町を核として近隣7町村を合併して昭和15年市制施行、その後2次にわたる編入合併を経て現在に至っている。

2 加賀三湖と月津台地

小松市の山岳地(加越山地)は新第三紀火碎流堆積物よりなるが、この外縁を縁取るように、第四紀高位段丘がなだらかな丘陵を形成している。ここより北にせり出すのが月津台地で、標高は、高所で約20m程度あるが、平均的には5~10m程度で、なだらかな起伏の連続した中位段丘である。大きな開析谷で区切って、北を御幸野台地、南を矢田野台地と呼ぶこともある。かつて、周囲は浜堤列で海と隔てられた潟湖が囲み、泥質の湿地や湿地が広がっていたが、現在は今江潟の全域、柴山潟の約3分の2が干拓され、湿地や湿地も月津台地の採取土で埋め立てて乾田化されている。

梯川は、大杉谷を北流し、郷谷川・津上川等を合わせて国府台地をえぐりながら西に向を変え、八丁川・前川等を合わせて、安宅で浜堤を突き破って日本海に注ぐ。図2は明治時代の河道と水域を合成したものだが、幕末の頃までは、細かく複雑に蛇行していた。

3 梯川氾濫原

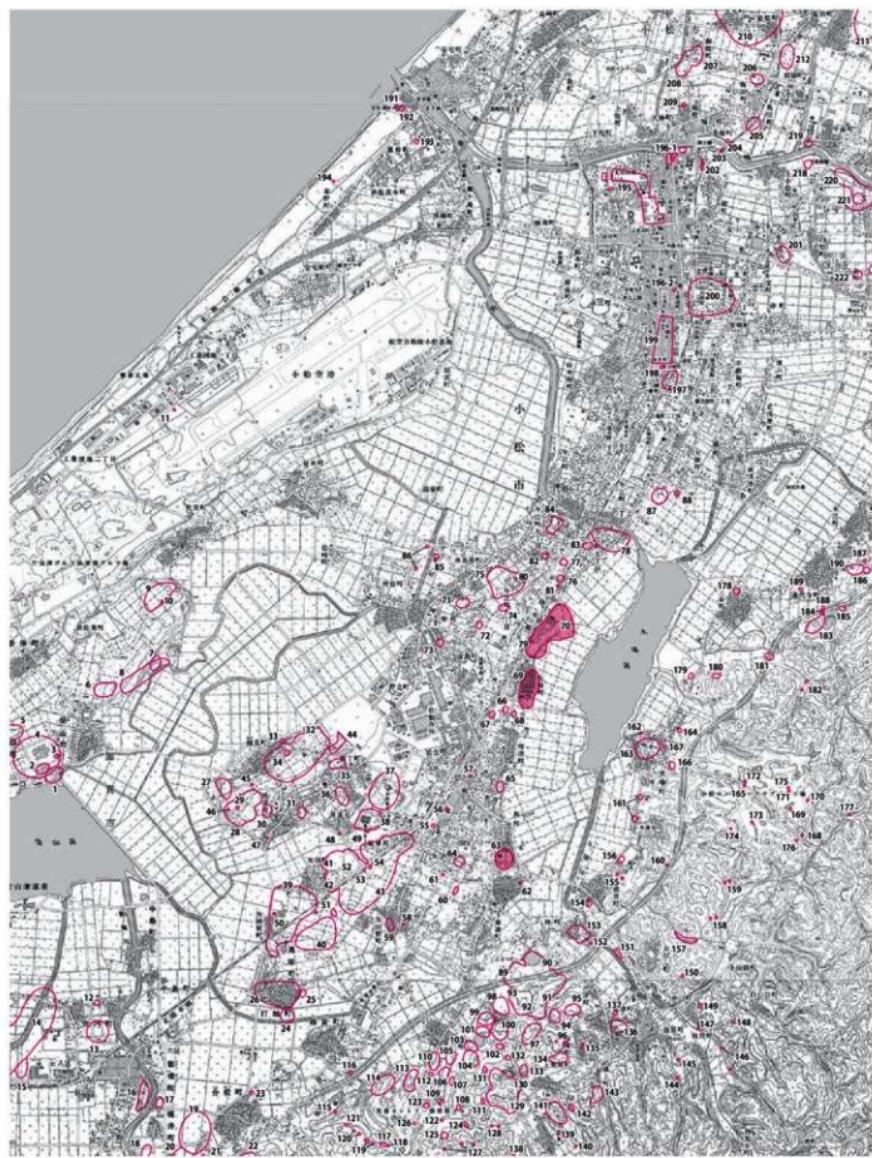
梯川は掃流力が弱く、自然堤防の発達が悪い平坦な沖積平野を形成した。河道が南に折れる地点が小松城跡で、小松町は埋没したもっとも内陸側の浜堤列上に立地している。梯川氾濫原はこれより下流には形成されず、河道は手取川氾濫原との境界に当たる最も低い位置にある。複雑に蛇行する河道はしばしば氾濫したため、明治維新直後から河道の直線化工事が繰り返さ



第1図 小松市の位置



第2図 小松市の地形



第3図 遺跡分布図



れてきた。明治 44 年～大正 12 年に石田橋～安宅間の開削工事により、現在の河道になり、河川改修は現在も続いている。

本報告で言う梯川氾濫原とは、事實上、梯川と今江渕・木場渕を結んだ領域を指している。図 2 に表示はないが、この領域には明治 20 年頃までは扇形に小河道群が残っており、灌漑に利用されていた。この中央を貫流していた猫橋川が本流とされ、これら小河道群は、氾濫原を形成した梯川旧河道群と見なされる。傾斜の少ない平坦な地形はしばしば湛水被害を引き起こし、明治 32 年の耕地整理法以降、用水確保と湛水防除の必要から用排水路の整備が繰り返し行われた。

第 2 節 歴史的環境

1 旧石器～縄文時代の遺跡

発見例自体は決して少なくないが、小松市内では資料が乏しい。能美丘陵界隈で言えば、河田山遺跡（276）や八里向山 A～F 遺跡（304～309）など、散発的に遺物や遺構が確認された例はあるが、集落遺跡としての確認例は断片的である。能美市能美丘陵東遺跡群では、宮竹庄が屋敷 A～D 遺跡や宮竹うっしょやま A・B 遺跡（いずれも図郭外）など、縄文時代中期を中心に豊富な資料を得るに至っている。遺跡のほぼ全域を調査したこの両者は非常に好対称をなしている。

一方、月津台地では、念仏林遺跡（37）が集落遺跡としては代表的な調査例と言えるだろう。近現代の開発も含め、多くが後世の破壊を受けて潰滅的な状態の中で、集落像の一例を提供している。能美丘陵でも月津台地でも、縄文時代の集落遺跡の多くは短期間に営まれた小集落で、南加賀では能美丘陵が分布的中心をなすと見なされる。

2 弥生時代の遺跡

八日市地方遺跡（198）が大規模な環濠集落として特筆され、中期はここだけに收敛する趨勢であり、後期頃から古墳時代前期にかけて梯川周辺に広い範囲に集落が点在する景観となる。代表的なところでは、高堂遺跡（図郭外）、大長野 A 遺跡（213）、漆町遺跡（223）、荒木田遺跡（249）のように、広大な領域の複合遺跡で法仏期頃以降の遺物が出土していて、月影期頃にかけては、河田山遺跡（280）や八里向山 A 遺跡（304）で高地性集落が確認されている。ただ注意が必要なのは、広大な領域の複合遺跡というのは、現集落からはずれた範囲であることが前提であり、範囲の狭小な遺跡は、現集落と重複して確認できないことが多い。

3 古 墳

能美地域の首長墓の系譜とされる末寺山 5・6 号墳、秋常山 1 号墳、和田山 5 号墳（いずれも図郭外）を擁する能美古墳群が手取川河域と目される領域の南に接して築造される。造墓は弥生時代末に始まり、古墳時代を通じて造墓が継続する、能美地域の中核的古墳群と評価されている。

能美丘陵界隈では、中期後半以降、河田山古墳群（281）や下開発茶臼山古墳群（図郭外）など、中小規模の円墳・方墳が尾根筋に密集して混在ないしいずれかのみの構成で築造される群集墳が各所に分布する。また、平野部では、千代オオキダ遺跡（229）で、削平された方墳からなる前期段階の古墳群が発見され、新たな知見を得るに至っている。

月津台地では、小規模な後期古墳が疎らに分布する趨勢で「三湖台古墳群」と総称され、古墳群としては江沼地域に属する。造墓が始まる早い段階では白のはぞ古墳（44）や御幸塚古墳（82）などの中規模の前方後円墳が見られるが、主体は小規模な円墳で、埴輪を伴う。矢田借屋古墳群（52）のような密集する造墓のあり方は、三湖台古墳群では今のところ特異な事例といえるだろう。

埋葬施設は、木棺直葬から後期前半に木芯粘土室、さらに後半に切石積横穴式石室が採用される。

4 古墳時代～古代・中世の遺跡

集落遺跡の趨勢で言えば、6世紀以降8世紀にかけては集落の再編期に当たり、相対的に資料が稀薄になる傾向があり、7世紀頃を前後して廃絶する集落と出現する集落がある。

7世紀代の月津台地では、額見町遺跡(32)の発掘調査以降、矢田野遺跡(43)、薬師遺跡(70)でL字形カマドを設えた竪穴建物跡の発見が相次ぎ、渡来系移民の動静が、木場潟を挟む対岸の江沼丘陵を占地する古代製鉄遺跡群の趨勢との相関性において注目される。

梯川氾濫原地域に目を転じると、8世紀、在郷の財氏関連遺跡とされる佐々木遺跡(234)が異彩を放つほかは、概ね盛期が9世紀後半～10世紀前半になる傾向が知られている。墨書き土器をはじめとして、施釉陶器や風字硯など、上級に格付けされる遺物が出土するものの、大型建物や倉庫群といった目立つ遺構の発見例に恵まれず、集落遺跡の評価を難しくしている。

寺院跡として、図3には中宮八院(323、326、335、342、354、355、356、359)を表示しているが、現状は伝承地の域を出ない。発掘調査された寺院跡として、浄水寺跡(247)、八里向山B遺跡(305)、里川E遺跡(318)が、いずれも加賀立国以後、中宮八院以前に成立した山林寺院に位置づけられ、浄水寺のほかは短期間で廃絶している。また、松谷寺跡(356)では、8世紀前半に遡る古代山林寺院跡が確認され、「松谷庵寺」として名称上の区別を明確にして取り扱うこととなった。なお、同調査で「松谷寺」は確認に至っていない。

製陶遺跡群について、6世紀前半には二ツ梨東山古窯跡(105)で須恵器生産を開始し、二ツ梨豆岡向山古窯跡群(100)、二ツ梨殿様池古窯跡群(101)で埴輪を焼成した窯も確認されており、江沼地域の古墳出土埴輪の供給地と考えられている。以後、10世紀中頃まで操業が結く南加賀古窯跡群が江沼丘陵を占地する。一方の能美丘陵では、7世紀前半に八里向山J遺跡(地蔵谷古窯跡:313)で須恵器生産を開始し、同後半代には湯屋古窯跡群(図郭外)に操業の拠点を移動する。8世紀前半には和気古窯跡群(図郭外)へさらに移動し、9世紀前半まで窯を移動しながら操業が続い、疎らな窯跡群を残した。これら能美市和気地区の窯跡群は、能美古窯跡群の南群として括られ、窯1基あたりの出土量が多い特徴が知られている。南加賀古窯跡群との比較では、操業の盛衰が補完的な傾向が指摘される一方で、技術的・供給的に両者の異質性も指摘されている。

これら製陶遺跡群とほぼ重複して、製鉄遺跡群も分布する。遺跡の性質上、時代不詳の遺跡は多いが、現在までに知られる最古の例として、蓮代寺ガシショウタン遺跡(185)で製鉄に伴うと見られる製炭窯が7世紀後半～末ないし8世紀初頭に比定されている。

律令期～中世には、各所で荘園が開発されるが、発掘調査でこれに関連する成果として、徳久・荒屋遺跡、下開発遺跡(いずれも図郭外)が律令期に成立した東大寺領幡生荘に比定されている。また、白江梯川遺跡(220)、漆町遺跡(223)は中世に皇室領や京都妙法院領として経営された南白江荘に関連する遺跡とされ、前者は在地領主層の拠点となる領域と考えられている。白江堡跡(221)は『能美郡誌』によれば、従前の白江念仏寺塔遺跡(漆町遺跡:223)周辺が推定地の一つに上がっていたが、『石川県遺跡地図』に記載される内容と、従来プロットされていた旧白江墓地で埋蔵文化財が存在しなかった事実を勘案すれば、現在までの情報に照らす限りは、ここに比定すべきだろう。

5 中世の城館・寺院・窯跡

中世城館跡や中世寺院跡は、文献や口碑によるところが大きく、その多くは一一向挨拶にまつわるものである。近代の耕地整理で破壊を受けた遺跡が多く、調査が入った事例も極めて乏しいが、岩渕城跡(343)、岩倉城跡(350)、波佐谷城跡(361)など、分布調査で縦張図が作成されている。

中世窯業について、古代の南加賀古窯跡群の分布域にほぼ重複して、在地瓷器系窯、いわゆる「加

賀窯」が分布する。常滑窯の技術に基づく窯で、窯を中心とした日用雑器類の生産が主力であったとされる。操業の期間が短く、12世紀末までは二ツ梨奥谷1号窯（108）で操業を開始し、湯上谷古窯跡群（143）で盛期を迎えるが、これを最後に14世紀代に一旦途絶え、西荒谷カマンダニ窯（図郭外）で越前窯の技術移植により一時操業するが、現在までに流通は確認されておらず、程なく終焉したといわれている。

6 近世～現代

1640（寛永17）年、藩主を退いた前田利常の小松城入城を契機として、城下町としての小松町が成立するが、関連するところで大川遺跡・東町遺跡（196）が埋蔵文化財包蔵地（近世の町屋跡）として周知化されている。大川遺跡では発掘調査も実施され、小松市でも近世城下町の町屋の様相が明らかになりつつある。なお、前田利常の没後、亡骸は三宅野（現在の小松市河田町地内）で荼毘に付されたとされており、灰塚（268）が伝わっている。

近代窯業の関連で、南加賀では19世紀初めに加賀藩窯としての若杉窯（239）に始まるいわゆる再興九谷は、肥前系の染付・色絵の技術を移植して操業が軌道に乗り、若杉窯で技術を習得した陶工らによって、蓮代寺窯（188）、小野窯（267）などの民窯も操業を始めた。近代以降も民営の製陶業は引き継がれている。窯業という括りで言えば、再興九谷とほぼ時期を同じくして越前より技術移植して操業が始まる製瓦業も現代に引き継がれ、製品は「小松瓦」と呼ばれる。

さて、現集落の多くは近世以降に興った集落であり、地名も、郷名または莊園、中宮八院に所以を持つものなど見られるが、集落自体に直接の関係はなく、地名伝承にも不確かな部分が多い。史実で確かめられる伝承でも、例えば、一向一揆の古戦場伝承が古墳と結びついたり（土百古墳：81）、戦国末期の武将の墓と伝承される塚が古墳であったり（左門殿古墳：45）するなど、類似の事例はいくつか明らかになっている。加賀国府・国分寺や中宮八院などの文献史の分野で研究が進んでいる場合でも、伝承地が曖昧であったり複数あるなど、所在が確認できない現状を抱えている。

第1表 遺跡地名表

No.	名 称	種 别	時 代	圖 号
1	菊山水式古墳	古墳	鐵文	
2	菊山小貝塚	その他墓	中世	
3	菊山神社遺跡	歴史地	不詳	
4	菊山遺跡	歴史跡	中世	
5	一ノ丁遺跡	歴史地	古墳～古代	
6	菊山古墳	古墳・集落跡	鐵文	加賀小御定史跡
7	菊山小字北遺跡	古墳	古代	
8	菊山中村遺跡（A地点）	古墳跡	弥生	菊山中村遺跡A地點に所在する古墳
9	菊山中村遺跡（B地点）	古墳跡	弥生	
10	竹原山遺跡	古墳	不詳	
11	日本本塚	古塚	不詳	
12	合戸遺跡	歴史地	不詳	
13	鶴林遺跡	歴史地	古代（平安）	
14	鶴林遺跡	歴史地	鐵文	
15	那えどり地蔵遺跡	歴史地	古墳～中世	
16	前根守跡	登革跡	中世（室町）	
17	柳井衛生センター遺跡	歴史地	古代	
18	柳井跡	歴史地	古代	
19	分枝A遺跡	歴史地	古墳	
20	分枝B遺跡	歴史地	古代（平安）	
21	分枝C遺跡	古墳	古墳	円墳2
22	分枝Cシロ小山遺跡	古墳	古墳	前方後円墳3、円墳10、方墳6
23	分枝C山古墳	古墳	古墳	前方後円墳
24	行舟A遺跡	歴史地	鐵文	
25	行舟B遺跡	歴史地	弥生	
26	行舟C遺跡	歴史跡	中世（安土桃山）	
27	前田町内遺跡	古墳跡	弥生～中世	
28	茶臼山A遺跡	歴史地	不詳	
29	茶臼山B遺跡	歴史地	鐵文	
	茶臼山祭壇遺跡	その他（祭壇）	古代（奈良）	

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
30	月津オカモロ	島地帯	古墳・中世	
31	月津アモロ	島地帯	古代(奈良)	
32	船岡町遺跡	島地帯	縄文	
33	船岡町付近 A 遺跡	島地帯	古墳	船岡町遺跡A
34	船岡町付近 B 遺跡	島地帯	縄文	船岡町遺跡B
35	舟川遺跡	島地帯	縄文・不詳	
36	舟川新野跡	島地帯	縄文・古代	
37	笠置林内跡	生底跡	縄文	
38	笠置林内跡	生底跡	弥生・古墳	
39	矢弓野跡	生底跡	古代(奈良)	
40	刀州河跡	島地帯	縄文	
41	矢弓 A 遺跡	島地帯	縄文	
42	矢弓 B 遺跡	島地帯	古墳	矢弓野跡の一部
43	矢弓野跡跡	生底跡	古墳・古代	
44	日吉山古墳	古墳	古墳	西方街古墳
45	弓削山古墳	古墳	古墳	門田古墳
46	弓削山古墳	古墳	古墳	門田古墳、之段築成
47	弓削山古墳	古墳	古墳	門田古墳
48	弓削山古墳	古墳	古墳	門田古墳
49	弓削山古墳	古墳	古墳	門田古墳、木乙林古墳
50	弓削山古墳	古墳	古墳	門田古墳、安石横穴式石室、家用石棺
51	乳森山古墳	古墳	古墳	門田古墳、前方後円墳
52	矢弓山城跡	古墳	古墳	門田 14、前方後円墳 3、不詳 1、木乙林古墳
53	百人塚古墳	古墳	古墳	門田古墳
54	矢弓山城跡	古墳	古墳	門田 3、前方後円墳 1
55	矢弓山城跡古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	藤原塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	狩野山古墳	古墳	古墳	門田古墳、安石横穴式石室
58	中村古墳	古墳	古墳	門田古墳、家用石棺
59	矢弓野跡付近遺跡	島地帯	古墳(平安)	
60	矢弓山城跡	古墳	古墳	櫛穴 7 - 8
61	朝日山古墳	古墳	古墳	
62	下原山 B 墓群	古墳	不詳	櫛穴 2
63	島地帯	島地帯	弥生・中世	
64	島山遺跡	島地帯	古代	
65	島山遺跡	島地帯	古墳	古墳?
66	舟津 A 遺跡	島地帯	縄文	
67	舟津 B 遺跡	島地帯	縄文	
68	舟津 C 遺跡	島地帯	古墳	
69	矢弓窓の遺跡	島地帯	縄文・中世	
70	葛城跡	島地帯	古墳・古代	
71	中丸ノツヤ A 遺跡	島地帯	古代(奈良)	
72	中丸ノツヤ B 遺跡	島地帯	古墳	
73	中丸ノツヤ C 遺跡	島地帯	古墳	
74	今川山ノ口遺跡	島地帯	古墳	
75	千葉山遺跡	島地帯	古墳	
76	千葉山遺跡	島地帯	縄文	
77	今川山丘日御跡	生底跡	古墳・古墳	
78	五重山の貝塚	貝塚	縄文	
79	矢崎山古墳	古墳	古墳	
80	鷲山山古墳	古墳	古墳	
81	十日月遺跡	古墳	古墳	
82	御中野古墳	古墳	古墳	前方後円墳、小堀山指定史跡
83	今川山丘古墳	古墳	不詳	櫛穴 4
84	御中野古墳	古墳	古墳	
85	中川空堀	土産遺跡	中世	主官上取輪の一部
86	日本山空堀	土産遺跡	中世	標丘塗
87	大崩跡	島地帯	古代	
88	佐賀山城跡	その他の墓	中世	標柱定史跡
89	佐賀山城跡	古空堀	中世	
90	佐賀山城跡(ホタケガ谷空堀跡)	生底跡	古墳	御敷若3、南加賀古跡跡北部
91	佐賀山城跡(ホタケガ谷空堀跡)	生底跡	古墳	御敷若2、十郎山古墳1、南加賀古跡跡北部
92	佐賀山城跡	生底跡	古代(平安)	御敷若2、南加賀古跡跡北部
93	佐賀山城跡(ホタケガ谷空堀跡)	生底跡	古墳	御敷若2、十郎山古墳1、南加賀古跡跡北部
94	戸津ワクニ遺跡	生底跡	古代(平安)	御敷若
95	戸津シラガガニ遺跡	生底跡	古代(平安)	御敷若1、御敷若1、南加賀古跡跡北部
96	戸津アチャマ古跡跡	生底跡	不詳	御敷若
97	戸津オカモロ	生底跡	古代(奈良)	御敷若2、御敷若1、南加賀古跡跡北部
98	二ノ郷一山古跡跡	生底跡	古代	御敷若2、十郎山古墳2、御敷若1、御敷若2、南加賀古跡跡北部
99	二ノ郷一山古跡跡	生底跡	古墳・古代	御敷若4
100	二ノ郷山古跡跡	生底跡	古代	御敷若13、御敷若2、古陶遺跡2、南加賀古跡跡北部
101	二ノ郷山古跡跡	生底跡	古代(奈良)	御敷若3、南加賀古跡跡北部
102	二ノ郷アチャマ古跡跡	生底跡	古代	十郎山古墳4、御敷若1、南加賀古跡跡北部
103	ツヅル山古跡跡	生底跡	古墳	御敷若3、南加賀古跡跡北部
104	ツヅル山古跡跡	古墳	御敷若3、南加賀古跡跡北部	
105	ツヅル山古跡跡	古墳	御敷若3、南加賀古跡跡北部	
106	ツヅル山古跡跡	生底跡	古代(奈良)	御敷若1、御敷若1、御敷若1、南加賀古跡跡北部
107	ツヅル山古跡跡	生底跡	古代(奈良)	御敷若1、御敷若1、南加賀古跡跡北部

No	名 称	種 别	時 代	圖 書 号
108	二ツ鰐頭古墳跡群	生産遺跡	古代(平安)	近世遺跡2、加賀銅1、南加賀古墳跡北群
109	二ツ鰐頭古墳1・2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
110	二ツ鰐頭古墳跡群	生産遺跡	古代	近世遺跡6(「長陶遺跡」)、南加賀古墳跡北群
111	二ツ鰐頭古墳跡群	生産遺跡	不詳	近世遺跡6、南加賀古墳跡北群
112	久保田山古墳跡群	生産遺跡	古代(平安)	近世遺跡6、南加賀古墳跡北群
113	久保田山古墳跡	生産遺跡	古代(平安)・中世(縄文)	近世遺跡4、加賀銅2、製鉄3、南加賀古墳跡北群
114	船形山古墳跡群	生産遺跡	古代(平安)・中世(縄文)	近世遺跡6、南加賀古墳跡北群
115	船形山A遺跡	遺布地	中世	
116	船形山B遺跡	遺布地	中世	
117	小矢舟1号～2号製鉄跡	生産遺跡	中世(縄文)	加賀銅2
118	小矢舟1号製鉄跡(天王山1号製鉄跡)	生産遺跡	不詳	製鉄2
119	小矢舟2号～3号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
120	大久保1号～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
121	大久保2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	
122	那谷1号製鉄跡	生産遺跡	中世(縄文)	加賀銅
123	矢野町カタクシダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
124	矢野町1～2号櫛穴	遺布地	不詳	
125	那谷1号～4号櫛穴	遺布地	不詳	
126	那谷1号櫛穴	遺布地	不詳	
127	新井山山古墳跡群	生産遺跡	不詳	製鉄2
128	上坂山スイズミ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
129	上坂山ジヤマモリ二号墳	生産遺跡	古代(平安)	近世遺跡4、製鉄3、南加賀古墳跡北群
130	上坂山ジヤマモリ二号墳跡	生産遺跡	古代(平安)	近世遺跡4～5、製鉄2、櫛穴1、地下式坑1、南加賀古墳跡北群
131	上坂山ジヤマモリ二号墳跡群	生産遺跡	古代(平安)・奈良	近世遺跡4、南加賀古墳跡北群
132	上坂山キタ古墳跡群	生産遺跡	古代(奈良)	近世遺跡2、南加賀古墳跡北群
133	上坂山リダム古墳跡群	生産遺跡	古代(奈良)・中世(縄文)	近世遺跡1、加賀銅1、製鉄1、南加賀古墳跡北群
134	上坂山オヤマ古墳跡群	生産遺跡	中世(縄文)	近世遺跡3、加賀銅1、製鉄1
135	戸津1号～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
136	戸津本遺跡	古跡	中世(室町)	
137	戸津の郷遺跡	遺布地	古代(中世)	
138	上坂山山古墳跡群	生産遺跡	不詳	製鉄2
139	荒井山ニカゲ山遺跡	生産遺跡	古代(平安)	近世遺跡1、製鉄1、南加賀古墳跡北群
140	荒井山ニカゲ山遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
141	上坂山ニカゲ山遺跡	生産遺跡、寺、寺跡、塔跡	古代(平安)～中世	近世遺跡5、製鉄2、遺跡、南加賀古墳跡北群
142	上坂山ハシシニ古墳跡群	生産遺跡	中世(縄文)	加賀銅1
143	月山古墳跡群	生産遺跡	中世(縄文)	加賀銅1、製鉄2
144	西山フルシタノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
145	西山ムカシヤマタクシノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
146	蛇(ナガ)ドリ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
147	坂(サカ)丹製鉄跡	遺跡	中世(縄文)	近畿圏北地
148	日川前ドリア製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2・数値
149	月川社山製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
150	月川シンドウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
151	月川遺跡	遺布地	不詳	
152	林(ハラ)神社経緯	遺跡	中世(縄文)	
153	林(ハラ)跡	遺跡	中世	
154	津守(ツモリ)山古墳	遺布地	中世	
155	津守(ツモリ)山遺跡	遺跡	中世(室町)・近世	地下式坑1、2号櫛穴
156	大坂山古墳	遺布地	繩文	
157	小坂山コガタ山遺跡	遺布地	不詳	近畿圏北地
158	小坂山スコトノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
159	小坂山オヤマヤマノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
160	津守者ハシタノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2・對田実數
161	本郷山古墳	古跡	古墳	円鏡4
162	本郷山古墳	古跡	古墳	近元で曲山城跡とされる
163	酒田山古墳	遺跡	不詳	
164	木場山京塙跡	遺布地	縄文	
165	木場A遺跡(木場遺跡H地区)	生産遺跡	古代(奈良)	製鉄2
166	木場B遺跡	遺布地	古代(平安)～中世	
167	木場C遺跡	遺布地	弥生	
168	木場山A地区(1号櫛穴)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄3、瀬戸内海沿地
169	木場山B地区(2号櫛穴)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄2・製鉄2
170	木場山C地区(3号櫛穴)	生産遺跡	不詳	製鉄
171	木場山D地区(4号櫛穴)	生産遺跡	不詳	製鉄2・對田実數
172	木場山E地区(5号櫛穴)	生産遺跡	不詳	製鉄
173	木場山F地区(6号櫛穴)	生産遺跡	不詳	製鉄
174	木場山G地区(7号櫛穴)	生産遺跡	不詳	製鉄2
175	木場山D地区(8号櫛穴)	櫛穴1	不詳	
176	大山遺跡	遺布地	不詳	近畿圏北地
177	合合賀山古跡(小山遺跡)	遺布地	不詳	近畿圏北地
178	古(カ)遺跡	遺布地	縄文	
179	古(カ)B遺跡	遺布地	弥生～古墳	
180	古(カ)D古墳遺跡	不詳	不詳	遺丘又成塚
181	古(カ)E古墳	生産跡	古代～中世	
182	古(カ)F古墳	生産跡	不詳	製鉄2・瀬戸内海沿地
183	東山(ヒマラヤ)山古墳跡群	生産跡	不詳	近畿圏北地
184	東山(ヒマラヤ)ノ製鉄跡	生産跡	中世(縄文)	製鉄2・近畿圏北
185	東山(ヒマラヤ)ショウタク山遺跡	生産跡	古墳	製鉄2・近畿圏北地
186	東山(ヒマラヤ)遺跡	遺布地	不詳	近畿圏北地
187	木村古墳	生産跡	近世	製鉄
188	東山(ヒマラヤ)	生産跡	近世	西側丸山・清代寺跡
189	東山(ヒマラヤ)	生産跡	近世	佛立堂
190	蓬(ボウ)台	日今跡	中世	酒川氏庭園寺・蓬(ボウ)寺
191	安(ア)月津跡	その他	不詳	鶴見定寺跡
192	安(ア)古(カ)山遺跡	遺布地	不詳	
193	安(ア)中(チ)山遺跡	その他	不詳	中世(室町)
194	安(ア)大塚山遺跡	不詳	不詳	磐石海上も信玄の磐石とも。現存せず。

No.	名 称	種 别	時 代	圖 号
195	小松城跡	城郭跡	古世	本丸・二丸・三丸の一部、本丸東側は小松城定跡
196-1	大内城跡	城郭跡	古世	吉坂小松城下町・別町の城郭跡
196-2	東町遺跡	城郭跡	古世	吉坂小松城下町・別町の城郭跡
197	今里遺跡	生産遺跡	中世(室町)	築堤
198	今里村付近古跡群	生産跡	中世(室町)	丹波の古文化地
199	今里城跡	城郭跡	古世	本浜氏が御城として使ったもの
200	八日山地方遺跡	生産跡	弥生	櫛塚集落
201	上ノ松原跡	遺跡場	古代(平安)	
202	岡原遺跡	生産跡	弥生	
203	福川遺跡(城跡)	遺跡場	弥生	福川に分離された左岸側包蔵地
204	福川遺跡(城跡)	遺跡場	弥生	福川に分離された右岸側包蔵地
205	白山A遺跡	遺跡場	古墳～古代	
206	白山B遺跡	遺跡場	古墳	
207	御所遺跡	城郭跡	中世(室町)	一帯に、御所新田開拓包蔵地
208	西原遺跡	生産跡	古世～中世	
209	桜井遺跡	生産跡	中世	
210	松原城跡	遺跡場	古世～中世	
211	山田城跡	遺跡場	古世～中世	
212	長田城遺跡	遺跡場	古世～古代(平安)	
213	大河野A遺跡	生産跡	古世	中世(室町)
214	大河野B遺跡	遺跡場	古世	中世
215	牛伏山A遺跡	生産跡	古世	古代(平安)
216	牛伏山D遺跡	生産跡	古世～中世	
217	牛伏山E遺跡	生産跡	古世	
218	牛伏福川遺跡	生産跡	古世	福川に分離された右岸側包蔵地
219	平野福川遺跡	遺跡場	古世	福川に分離された右岸側包蔵地
220	吉川福川遺跡	生産跡	古世～中世	
221	吉川城跡	城郭跡	中世(室町)	吉川新御城遺跡包蔵地
222	吉川城跡	遺跡場	古世～中世	吉川城跡の一部
223	森山遺跡	生産跡	古世～中世	
224	一井遺跡	遺跡場	古文	
225	一井B遺跡	生産跡	古世～六朝	
226	一井C遺跡	生産跡	古世～古墳	
227	定光寺跡	古寺跡	中世(室町)	
228	千代・通多遺跡	集落跡	古墳～中世	
229	千代・オダ遺跡	集落跡	古文～古世	
230	千代小の岡遺跡	遺跡場	古墳	古代(平安)
231	千代城跡	城郭跡	中世(室町)	
232	千代木村遺跡	遺跡場	古墳	
233	結城遺跡	遺跡場	古文	
234	佐々木ノイタケ遺跡	生産跡	古世～中世	昭和時代宅地(前庭)
235	佐々木ノイタケ遺跡	生産跡	古世～中世	
236	佐々木ノイタケB遺跡	生産跡	古世～中世	
237	佐々木アサバタケB遺跡	生産跡	古世～平安	
238	引越跡	遺跡場	古世	
239	引越跡	生産跡	近世末	西側九谷・谷村堂、連続式住家
240	古竹遺跡	生産跡	古世～中世	古竹遺跡の範囲
241	古竹B遺跡(吉竹遺跡10番地)	遺跡場	古墳	古竹遺跡の範囲
242	古竹C遺跡	生産跡	古世～中世	
243	千木野遺跡	遺跡場	古文	
244	千木野(A)遺跡	古墳	古墳	古墳B
245	千木野(B)遺跡	生産跡	古世	
246	野山1号墳	古墳	古墳	所在不詳。現存するものは昭代残土のもの
247	野山1号墳(野山1号墳)	古墳	古墳	昭和初期の式古堂
248	淨子寺跡	生産跡	古代～中世	奈良は翌400年・奈良寺門山林寺向院のもの
	八幡城跡	集落跡	古世～古墳・古代(平安)・中世(織	
	その他の城	古代(平安)	古墺	
	八幡古墳	古墳	古墳	四邊B、木芝點石室
	八幡村北遺跡	生産跡	近世末	西側九谷・八幡村の城郭跡
249	荒木村遺跡	生産跡	古世～中世	
250	軒坂町方今遺跡	生産跡	古文～中世	
251	大原1遺跡	遺跡場	古世	
252	軒坂遺跡	遺跡場	古世～中世	
253	舟川遺跡	生産跡	古世	古作
254	軒坂中野見畠	その他の墓	中世(室町)	鬼見塚
255	軒坂庵守	古寺跡	古世	大興寺守承地
256	大原1号墳	古寺跡	古代(平安)	西側方今寺
257	舟川のまち遺跡	生産跡	古世～古墳	
258	古村遺跡	生産跡	古代(平安)	
259	古村福ドド遺跡	遺跡場	古代(平安)	
260	上立雲山遺跡	古寺跡	古代(平安)	知閑園守寺傳地
261	上立雲山中野見畠	その他の墓	中世(室町)	
262	古村船塚	古墳	古墳	
263	古村シマ遺跡	遺跡場	古代(平安)～中世	知閑園守寺傳地
264	古村台行遺跡	遺跡場	古文～平安	知閑園守寺傳地
265	小野遺跡	生産跡	古代(平安)	知閑園守寺傳地の一部
266	小野杉ノキ遺跡	生産跡	古代(平安)	知閑園守寺傳地の一部

No	名 称	種 别	時 代	調査 考
267	小物遺跡	生產遺跡	古世末	西岡丸山「小物」
268	前田利家公墓塚	その他の墓	古世	前田利家にか墓室に付された地とされる
269	前田利家公墓	その他の墓	古世末	古世の供養供養と除霊方法を施した古村、小牧市御正史跡
270	前田利家公墓跡	歴史地	古世	
271	前田利家公墓跡	歴史地	古代～中世	
272	前田利家公墓跡	歴史地	古世	
273	前田利家公墓跡	歴史地	古世	縄文・中世(実跡)
274	喜多谷古墳遺跡	歴史地	古世	
275	前田城跡	歴史地	古代	
276	前田城跡	古跡	不詳	
277	前田山古墳群	古墳	古墳	円墳9、木柏原塚、木乙點千室
278	前田山古墳群	古墳	古墳	円墳12、月造4
279	前田山古墳群	古墳	古墳	円墳
280	河田山遺跡	歴史地	旧石器～縄文	
	鬼須跡	共生		高属性集落、河田山10～12号墳が奈希
	その他の墓	古代(奈良)		火葬場、河田山1号墳の内側に所在
281	河田山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳2、前方築方墳2、円墳22、方墳34、平明1、木柏直丘、木乙點千室、切石垣築六式石室
	河田廻穴	歴史地	平跡	地下式。河田山34号墳の前に有る
282	河田山I G-328	生產遺跡	古代(奈良)	製鹽遺跡、能美古窯跡地跡、八里・河田山支群、河田山60号墳の近畿斜面に有る
	河田山I G-329	生產遺跡	不詳	製鹽遺跡、能美古窯跡地跡、八里・河田山支群
283	河田山B 遺跡	歴史地	縄文・古代(奈良)	
284	河田山C 遺跡	歴史地	不詳	
285	下ノ雪原・森	歴史地	不詳	地下式塙6、楕円1、不明1、3地点で計8基
286	五輪塙・森	歴史地	不詳	楕円2基
287	上ノ雪原・森	歴史地	中世(実跡)	楕円11基
288	上ノ雪原中野見跡	その他の墓	中世(実跡)	
289	上ノ雪原A 遺跡	歴史地	縄文・古代(平安)	
290	上ノ雪原B 遺跡	歴史地	古代(奈良)	
291	上ノ雪原C 遺跡	歴史地	古墳	楕円2基
292	上ノ雪原D 遺跡	歴史地	古代(奈良)	
293	上ノ雪原 E 遺跡	生產遺跡	古代(奈良)	前掛遺跡、能美古窯跡地跡、八里・河田山支群
294	上ノ雪原 F 遺跡	生產遺跡	不詳	地下式窯跡、能美古窯跡地跡、八里・河田山支群
295	谷内町遺跡	古跡	不詳	
296	谷内町遺跡	歴史地	縄文・中世	
297	下山町街跡	歴史地	不詳	
298	佐野山 A 遺跡	歴史地	共生	
299	佐野山 B 遺跡	歴史地	古墳	
300	佐野山 C 遺跡	歴史地	古代	
301	羽根神社付近跡	歴史地	古代(平安)	
302	河田山行方遺跡	歴史地	縄文・古代(平安)	
303	河田山山古墳群	古墳	古墳	円墳7
304	八幡山山 A 遺跡	歴史地	縄文	
	鬼須跡	共生		高属性集落
305	八幡山山 B 遺跡	歴史地	古跡	
	鬼須跡	古跡	旧石器～縄文・古代(奈良)	
306	八幡山山 C 遺跡	歴史地	古跡	
	鬼須跡	古跡	古跡	前面後方塙1、木柏前幕
307	八幡山山 D 遺跡	歴史地	共生	
	鬼須跡	古跡	古跡2、木柏前幕	
308	八幡山山 E 遺跡	歴史地	古跡	古跡1
	鬼須跡	古跡	古代	
309	八幡山山 F 遺跡	歴史地	縄文	
	鬼須跡	古墳	古墳	円墳10、木柏前幕
	その他の墓・植穴	中世(実跡)	鬼石墓1、楕円3	
310	八幡山山 G 遺跡	歴史地	共生・古代(平安)	
311	八幡山山 H 遺跡	その他の場	中世(縄文)	鬼石墓1、縄文・私設柵
312	八幡山山 I 遺跡	生產遺跡	古代(奈良)	前掛遺跡、能美古窯跡地跡、八里・奈美支群
313	八幡山山 J 遺跡	生產遺跡	古墳	前掛遺跡、能美古窯跡地跡、八里・奈美支群
314	明智 A 遺跡	生產遺跡	不詳	前掛遺跡2、前掛遺跡20
315	明智 B 遺跡	生產遺跡	不詳	前掛遺跡
316	明智 C 遺跡	生產遺跡	不詳	前掛遺跡
317	明智 D 遺跡	歴史地	縄文	
318	明智 E 遺跡	古跡	古代(平安)	加賀0001、国分寺傍邊山林寺伝跡の一
319	明智 F 遺跡	古跡	古代(平安)	加賀0001、国分寺傍邊山林寺伝跡の一
320	明智 G 遺跡	歴史地	不詳	
321	遠藤寺今・カガラ山 遺跡	歴史地	古代(平安)～中世	
322	遠藤寺今・カガラ山 遺跡	歴史地	古代(平安)～中世	自寺(明神寺)元は延暦尼承地
	竹野寺古跡跡	生產遺跡	古代(平安)	前掛遺跡(自寺御廻)
323	竹野寺古跡	古墳	古墳	古代遺跡の可能性も
	竹野寺古跡	古跡	古代(平安)	中世以前、可数ある伝承地の一
324	道子寺遺跡	歴史地	縄文	
325	河内古墳群	その他の墓	(平安)	道塙4、3墓調査、2号墳は羅刹時代に埋葬に利用された?
326	河内古墳群	その他の墓	古代(平安)	中世八脚、複数ある伝承地の一
327	菅原神社	古跡	中世(実跡)	一社の神、宇摩原の古跡とも
328	菅原神社	古跡	中世	一社の神、宇摩原の古跡とも
329	菅原神社	不詳	不詳	幾次G?
330	佐久今井御守跡	古跡	中世	
331	佐久今井の池古墳	古墳	古墳	
332	佐久 998	古跡	中世	
333	佐久今井	古跡	中世	
334	ブリショウジヤマ古墳群	古墳	古墳	円墳2、木柏點千室

No	名 称	種 别	時 代	備 考
335	中山 B 通跡 （伝）京首守跡	古墳跡	古墳～中世	中河八郡、地名伝承のみ
336	中山 C 通跡	古墳跡	古墳～平安	中河八郡、地名伝承のみ
337	中山通跡・別田通跡	古墳跡	古墳	
338	丘吉子中河尾跡	その他の遺跡	中世	
339	赤坂川口石碑	古墳地	古墳	
340	松の木谷石碑	不詳	不詳	存在自体が不明、立場不明とされる
341	赤坂古スズノキ谷横穴群	古墳跡	不詳	地元9、地下式庭4
342	舟岡跡	古墳跡	古墳（平安）	中河八郡
343	岩瀬跡	城郭跡	中世	
344	小山城跡	城郭跡	中世	
345	丘上原跡	城郭跡	中世	
346	佐和山城跡・佐野山城跡	その他の遺跡	古墳（平安）	小和山城定跡
347	支山寺跡	古墳地	古墳	
348	支山寺付近跡	その他の遺跡	中世	
349	下支山寺跡	古墳跡	不詳	廻六〇
350	佐野山城跡	城郭跡	中世（室町）	
351	佐野山城跡	城郭跡	中世	
352	鶴の木山跡	城郭跡	中世	
353	鶴の木山山頂跡	古墳地	古墳	
354	高砂寺跡	古墳跡	不詳	中河八郡
355	高砂寺跡	古墳跡	古墳（平安）	中河八郡
356	松谷寺跡	古墳跡	古墳（奈良）	非現知跡に遡る古代の神今院
357	平山城跡	城郭跡	不詳	中河八郡
358	丘山城跡（山神山山頂跡）	城郭跡	中世（室町）	一列一組・平野延山城山系
359	蓬生山跡	古墳跡	不詳	中河八郡
360	西津古道跡	古墳地	古墳	
361	西津古道跡	城郭跡	中世（室町）	一列一組・宇津沢内底谷盆地
362	（伝）佐野石井田古跡	古墳跡	中世（室町）	
363	渡良瀬古跡	古墳跡	不詳	廻六〇、地下式庭5
364	麻の木の石碑跡	古墳地	古墳	
365	佐野山城跡	古墳地	古墳	
366	大山山城跡	古墳跡	不詳	廻六〇
367	こたす谷山城跡	古墳跡	不詳	廻六〇
368	丘山城跡	古墳跡	不詳	廻六〇
369	南越塚塚	古墳	中世（室町）	
370	骨の山古跡	古墳跡	不詳	廻六〇
371	布根跡	古墳地	古墳	
372	寺ノ頭跡	古墳地	古墳	付近に寺伝跡の心配あり
373	御台山古跡	城郭跡	不詳	
374	御台山下山口神社跡	古墳跡	中世	
375	和泉山山城跡	生産跡	古墳（平安）	十束御山城山、能美古跡跡山群・和泉山古跡
376	和泉山山城跡	生産跡	古墳（奈良～平安）	能美古跡跡山群・和泉山古跡
377	和泉古跡跡山古跡	生産跡	古墳（平安）	能美古跡跡山群
378	和泉古跡跡山古跡	古墳	古墳	
379	和泉古跡跡山古跡	古墳地	古墳	
380	和泉古跡跡山古跡	城郭跡	古墳	
381	和泉古跡跡山古跡	生産跡	不詳	能美古跡跡山群・和泉山古跡
382	（伝）山口城跡	城郭跡	中世	
383	（伝）山口城跡	古墳跡	不詳	
384	今立山古跡	生産跡	不詳	能美古跡跡山群
385	今立山古跡	古墳	古墳	
386	鷹狩跡	古墳跡	不詳	
387	鷹狩世尊寺	その他の遺跡	中世	
388	鷹狩穴	古墳跡	不詳	
389	鷹狩跡	城郭跡	不詳	

参考文献

- イ 石川県教育委員会(1992)『石川県道路地図』
- 石川県立埋蔵文化財センター(2006)『石川県中世城跡調査報告書Ⅲ(加賀Ⅱ)』
- 石川県立埋蔵文化財センター(1986)『漆町道路Ⅰ』,石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988)『漆町遺跡Ⅱ』,石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988)『白江櫻川遺跡Ⅰ』,石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988)『白江櫻川遺跡Ⅰ』,石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989)『漆町道路Ⅲ』,石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989)『漆町道路Ⅳ』,石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989)『白江梯川遺跡Ⅱ』,石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989)『蓮代寺地区遺跡Ⅰ』,石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1990)『小松市高堂遺跡』

- 石川県立埋蔵文化財センター(1993)『能美丘陵東遺跡群Ⅰ』,石川県能美市
 石川県立埋蔵文化財センター(1995)『石川県小松市荒木田遺跡』
 石川県立埋蔵文化財センター(1997)『能美丘陵東遺跡群Ⅱ』,石川県能美市
 石川県立埋蔵文化財センター(1998)『能美丘陵東遺跡群Ⅲ』,石川県能美市
 (財)石川県埋蔵文化財センター(1999)『能美丘陵東遺跡群Ⅳ』,石川県能美市
 (財)石川県埋蔵文化財センター(1999)『能美丘陵東遺跡群Ⅴ』,石川県能美市
 (財)石川県埋蔵文化財センター(1999)『辰口町上徳山谷山西谷窯跡』,石川県能美市
 (財)石川県埋蔵文化財センター(2002)『加賀市柴山貝塚・柴山村遺跡』
 (財)石川県埋蔵文化財センター(2006)『小松市矢田野遺跡群』
 (社)石川県埋蔵文化財保存協会(1993)『小松市林遺跡』
 (社)石川県埋蔵文化財保存協会(1998)『石川県小松市八幡遺跡Ⅰ』
 石川考古学研究会(1988)『石川県城館跡分布調査報告』
- ウ 上野 與一(1965)考古篇『小松市史』4 風土・民俗篇,小松市教育委員会,石川県
 カ 軽海用水誌編纂委員会(1996)『輕海用水誌』小松東部土地改良区,p75-77,p201-221,石川県
 コ 小松市教育委員会(1988)『念佛林道路』,石川県
 小松市教育委員会(1990)『湯上谷古窯跡』,石川県
 小松市教育委員会(1990)『二ツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡』,石川県
 小松市教育委員会(1992)『矢田野エジリ古墳』,石川県
 小松市教育委員会(2000)『矢田借居古墳群』,石川県
 小松市教育委員会(2003)『八日市地方遺跡Ⅰ』,石川県
 小松市教育委員会(2004)『佐々木遺跡』,石川県
 小松市教育委員会(2004)『八里向山遺跡群』,石川県
 小松市教育委員会(2005)『小松市内道路発掘調査報告書Ⅰ』二ツ梨豆岡向山窯跡,石川県
 小松市教育委員会(2006)『小松市内道路発掘調査報告書Ⅱ』矢田借居古墳群,石川県
 小松市教育委員会(2006)『千代オオキタ遺跡』,石川県
 小松市教育委員会(2006)『小野遺跡』,石川県
 小松市教育委員会(2006)『額見町遺跡Ⅰ』,石川県
 小松市教育委員会(2007)『小松市内道路発掘調査報告書Ⅲ』薬師遺跡,石川県
 小松市教育委員会(2007)『額見町道路Ⅱ』,石川県
 小松市教育委員会(2008)『額見町道路Ⅲ』,石川県
 小松市教育委員会(2009)『額見町道路Ⅳ』,石川県
 小松市教育委員会(2010)『額見町道路Ⅴ』,石川県
 小松市教育委員会(2011)『小松市内道路発掘調査報告書Ⅶ』矢崎宮の下遺跡・薬師遺跡Ⅴ次,石川県
 小松市教育委員会(2014)『大川遺跡』,石川県
 小松市史編纂委員会(2001)『新修小松市史3』九谷焼と小松瓦,小松市,石川県
 小松市史編纂委員会(2002)『新修小松市史4』国府と莊園,小松市,石川県
 タ 辰口町教育委員会(1982)『辰口町下開発茶臼山古墳群』,石川県能美市
 辰口町教育委員会(1985)『辰口町湯屋古窯跡』,石川県能美市
 辰口町教育委員会(2001)『辰口町湯屋古窯跡Ⅲ』,石川県能美市
 辰口町教育委員会(2004)『下開発茶臼山古墳群Ⅱ』,石川県能美市
 辰口町教育委員会(2005)『和氣後山谷窯跡群』,石川県能美市
 テ 寺井町教育委員会(1997)『加賀美古墳群』,石川県能美市
 ベ 日置 謙(1923)『石川県能美郡誌』能美郡役所,p366-375,p642,p823,p1268-1269,p1342-1343.,石川県
 日置 謙(1925)『石川県江沼郡誌』江沼郡役所,p679.,石川県
 ホ 北陸中世土器研究会 編(1997)『中・近世の北陸』桂書房,p193-208.

第 II 章 薬師遺跡発掘調査

第 1 節 調査の概要

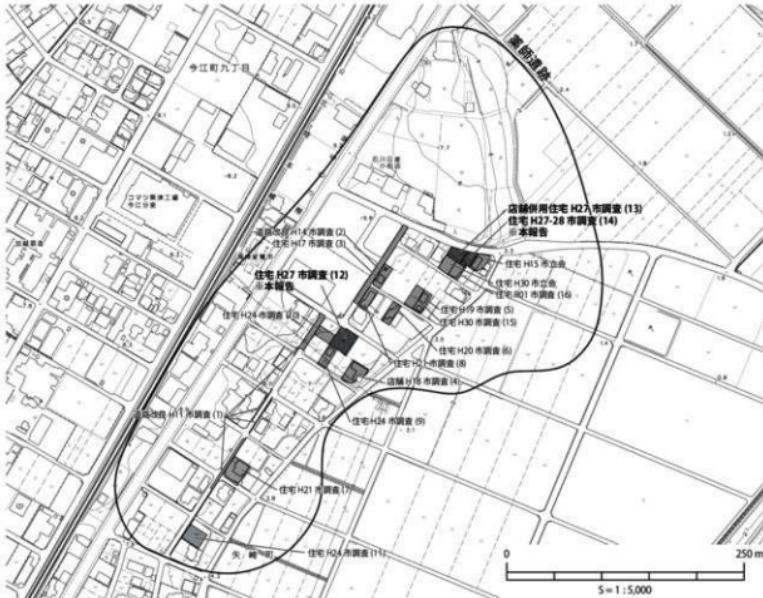
1 历史的調査

薬師遺跡の所在する矢崎町ナ字地内は、平成 11 年度及び平成 14 年度の市道改良工事に係る発掘調査以降、未舗装だった道路が舗装され、上下水道等のインフラも整備されたことから、畠の宅地化が進んでいる。個人住宅建築を原因とする試掘調査や工事立会は、平成 15 年度以降、毎年 1 ～ 数件ずつ実施されている。

発掘調査としては、平成 17 年度の第 3 次調査以降、今報告時点では、平成 30 年度の第 16 次調査まで、店舗を原因とする第 4 次調査を除いて 13 件が個人住宅（店舗併用 1 件含む）を原因としている。したがって、1 件あたりの発掘調査は規模が小さく、僅かな成果を少しづつ積み重ねている状況である。本書では、第 12 次～第 14 次調査までを報告する。

薬師遺跡の発掘調査で最も特筆されるのが 7 世紀の L 形カマドの発見で、第 3 次調査と第 5 次調査で 1 軒ずつ確認されている。県調査分も含めて、矢田野遺跡、薬師遺跡、矢崎宮の下遺跡と、飛鳥時代における渡来系集落の分布が月津台地全体に渡ると考えられるようになった。

薬師遺跡は、谷を挟んで南北に集落域を持つ遺跡であり、発掘調査は主に北側の領域で実施されている。ここには昔時「薬師山」（矢崎町側では「高山」）という山があり、今江町と矢崎町の境界をなしていたが、この山を取り巻くように広がる集落域だったと考えられる。



第 4 図 薬師遺跡 調査地の位置

南側の領域については情報が少ない。山の中心がJR北陸本線や国道305号線より西に位置する傾斜地だったためか、試掘調査では土採取等の削平の後埋め立てられた痕跡がしばしば見られ、埋蔵文化財が確認されないことが多い。

2 調査に至る経緯

第12次調査 平成27年6月7日付けで協議があった矢崎町地内の個人住宅建築の件は、薬師遺跡の範囲内にあるため、同年同月27日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の存在を確認した。建築の設計は、地盤を表層改良した上で布基礎となっていたため、発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法93条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成27年7月21日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

第13次調査 平成27年6月30日付けで協議があった店舗併用住宅建築の件は、薬師遺跡の範囲内にあるため、同年7月7日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の存在を確認した。台地から低地へ下る坂道に面しており、試掘調査の時点で地山が一部露出している状態だったため、発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法93条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成27年10月19日に着手した。なお、建築される店舗は個人経営のため、当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

第14次調査 平成28年12月13日付けで協議があった矢崎町地内の個人住宅建築の件は、薬師遺跡の範囲内にあり、かつ前年の第13次調査の隣だったため、試掘調査を省略して発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法93条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成29年1月10日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

3 調査の方法

土地境界のプレートまたは杭に原点(A-1)を設定して、土地境界を軸にして5m間隔のグリッドとした。

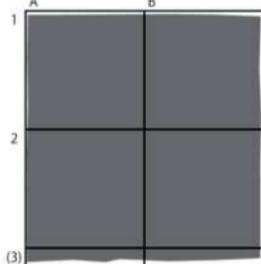
遺構の実測は、既存の4級基準点を与点として行った。

グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

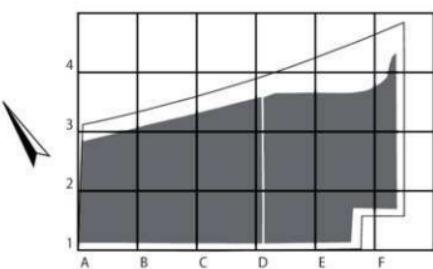
平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は50分の1と20分の1での併用、断面図と立面図は20分の1である。

4 調査の経過

第12次調査 7月21日に重機による表土除去で着手したが、ここから1週間は調査担当者の研修及び埋蔵文化財センターのイベント等のために器材搬入と



第5図 薬師遺跡 12次 グリッド配点図



第6図 薬師遺跡 13・14次 グリッド配点図

乾燥防止の養生をしただけで、発掘作業の開始は翌週からとなった。包含層掘削は1週間かけて行ない、この間、7月30日には中学生の職場体験を受け入れた。倒木や攪乱の痕跡で遺構が見づらい状況ではあったが、掘立柱建物、カマドと思われる焼土をそれぞれ1箇所で見出した。発掘作業は、主にカマドの周辺での竪穴プランの検出にリソースを割くことになるが、結果としては、削平のためか、竪穴もカマドもプランとしては確認されず、辛うじて柱穴らしいピットを見出したのみだった。

発掘作業を全景撮影まで完了したのは8月7日、平面図・立面図を翌週1週間かけて作成し、8月17日に器材の片付け、翌18日に重機で埋め戻して、調査を完了した。

第13次調査 試掘調査の結果で、地山が露出していないところでも5cm程度で地山に達することが分かっていたので、着手日とした10月19日より作業員を投入して、除草を兼ねた手掘り掘削を始めた。この作業の過程で、隣地擁壁に20cmほど土に覆われていた痕跡が残っており、近隣住民よれば、数年前まで藪に覆われていて、伐採後に表土を鋤き取り、もともとあった大きなゴミ穴を埋めたとのことだった。

地山を検出する作業は10月27日までかかったが、調査の範囲にこのゴミ穴ではなく、地山の削平は、数年前の表土鋤き取りではなく、「もともとあった大きなゴミ穴」を掘ったときの工事と考えられた。また、焼土を2箇所近接して検出したが、少なくとも1箇所は、貼床と思われる層が焼けていた。竪穴プランは残っていなかったが、柱穴は確認できたので、これを竪穴建物跡として記録する作業を11月6日まで続け、この日に全景撮影までを完了した。

季節柄、悪天候の日が多くなり、平面図作成は11月12日から20日までうち3日間の作業で作成し、調査で山積みにした土を重機で均す作業を20日に行ない、調査を完了した。

第14次調査 1月10日に重機を手配して表土除去を行ない、併行して作業員の手掘り掘削も開始した。初日の時点で、前年に聞いた「もともとあった大きなゴミ穴」を埋めた跡が調査区の大部分を占めていることが分かり、土砂搬出も必要かと思われた予定を変更して「ゴミ穴跡」を土置場に利用することにした。調査は、わずかにピット数基を検出しただけで、翌日には作業を完了した。

撮影用フィルムや測量機器の手配が間に合わず、天候不順もありまつて、写真撮影および平面図作成ができるのは1月18日、翌日までに全ての作業を完了した。

第2節 遺構と遺物

1 遺構（第7～11図）

(1) 竪穴建物

2軒検出したが、どちらも竪穴プランは確認できず、焼面と柱穴からの推定である。

SI14 焼面の縁に隆起が認められ、焚口で強く焼けたカマド壁の残存と考えられる。この周辺にSK23～28の6基の土坑が分布し、これらは竪穴建物廃絶後の掘削と思われ、一部に焼面直上出土のものと接合関係がある土師器煮炊具片が出土した。これ以外の土師器片も含めてこのエリアに分布が集中している。また、包含層調査中に広範囲に被熱した粘土片の散布が認められた。P14と15を柱穴と推定したが、この検討に基づけば、かまどは建物内で右に偏る位置になる。また、貼床は検出されず、竪穴自体の掘削痕の検討も、遺構検出面を徒らに荒らすとの考えから行なっていない。

SI15 焼面が大小1箇所ずつ見出された。このうち小さい方は粘土片が突き固められた状況が観察され、貼床と考えられる。柱穴は明確であり、焼面の位置関係からも竪穴建物と断定してよいと考えられるが、竪穴プランは攪乱の影響で見出されなかった。焼面の大きい方は壁の立ち上がりと考える隆起や支柱穴のような痕跡は検出されなかったが、カマドと考えてよいと思われる。

(2) 挖立柱建物

SB13 調査区内では梁行1間、桁行2間の柱穴の配列が見出された。平面図上ではかなり歪なプランだが、周辺には他のビットや根痕などの土壌擾乱も少なく、作業員も含めて誰もが指摘するほど明確に検出された。柱間寸法は、梁行で約2m、桁行で約3mである。調査区の隅で検出されたこともあり、総柱建物として調査区外に拡大する可能性もなくはないが、現在までのところ検討対象となりうる位置に発掘調査の機会はない。

(3) 土坑

SK23～28 過去に土坑の掘方を「漏斗状（＝井戸）」「筒状」「鉢状」に分類して報告したことがあるが（小松市教委2014）、これに従えば、SK24は筒状、他の5基は鉢状の掘方であり、すべて略円形～楕円形プランである。出土遺物にSI14のカマド周辺遺物と思われる土師器煮炊具が多く混入することはすでに述べた通りである。

SK29 削平の影響で底面を辛うじて検出した。隣地住宅の擁壁工事で約半分が破壊された状況ではあるが、プラン検出までの作業で遺物の集中する状況があった。プランは楕円形で、覆土には焼土を含む。掘方は鉢形に分類できると思われる。

2 遺物（第12～14図）

出土遺物は大半がSI14、SI15、SK29に関わるものであり、これら遺構年代の検討材料となるものと言えるが、実測図化の対象は限定的であり、土坑で唯一出土遺物の多かったSK29はほぼ土器片を回収したのみとなった。第2表には、参考として一部に遺物の年代を表記しているが、編年的に検討されたものではなく、一部の特徴をつまんでの推定に過ぎないことはご容赦願いたい。

(1) 古墳時代の遺物（9～10・31）

9～10は、須恵器の环Hの蓋と身である。

31は、土師器の釜（煮炊具の「甕」はすべて「釜」と呼びかえている）である。

(2) 古代の遺物（1～8・11～30・32～36）

1～2・11～24・30は須恵器の食膳具であり、1～2・11～12は环A、16～18は环Bの蓋と身、20～23は盤A、24は皿（無台）、30は高环である。

25～29は須恵器の貯蔵具であり、25・26は甕の胴上部、27は甕の口頸部、28は長頸瓶の口頸部、29は双耳瓶の胴下部である。

4～8は、SI14カマド周辺の土師器煮炊具（長胴釜・懶）である。出土位置は第9図に示した。

3は土師器の塊（有台）であり、32～34は長胴釜、35は鍋である。

(3) その他（37～41）

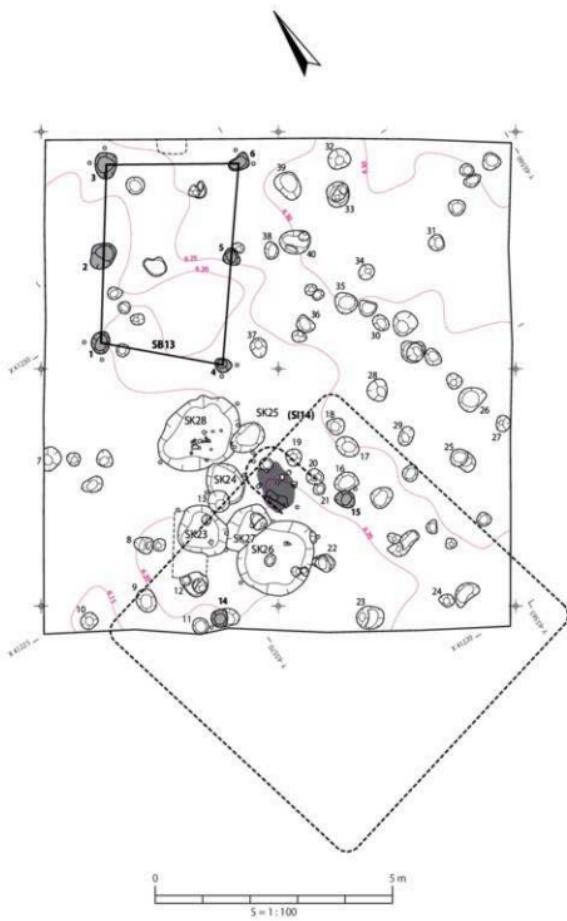
鍛冶関連遺物として50点を整理したが、これらのうちボルトの頭部と思われる鉄製品1点、酸化鉄の凝結と思われる自然物1点を除く48点が鍛冶滓である。実測図化した5点は椀形を呈するものとして抽出したが、40は分類上椀形としていない。

第3節 まとめ

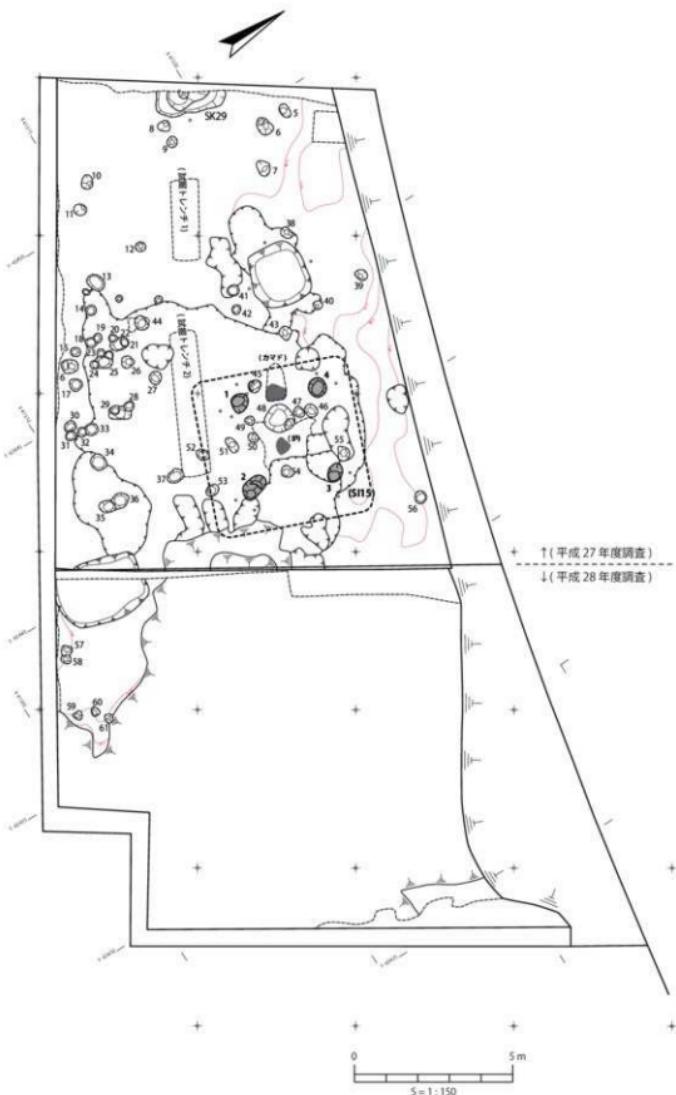
出土遺物の検討は十分といえないが、今報告に係る出土遺物は概ね8世紀代と9世紀後半～10世紀前半の2時期に区分できる。SI14・SI15は前者の時期の竪穴建物と考えられる。

参考文献

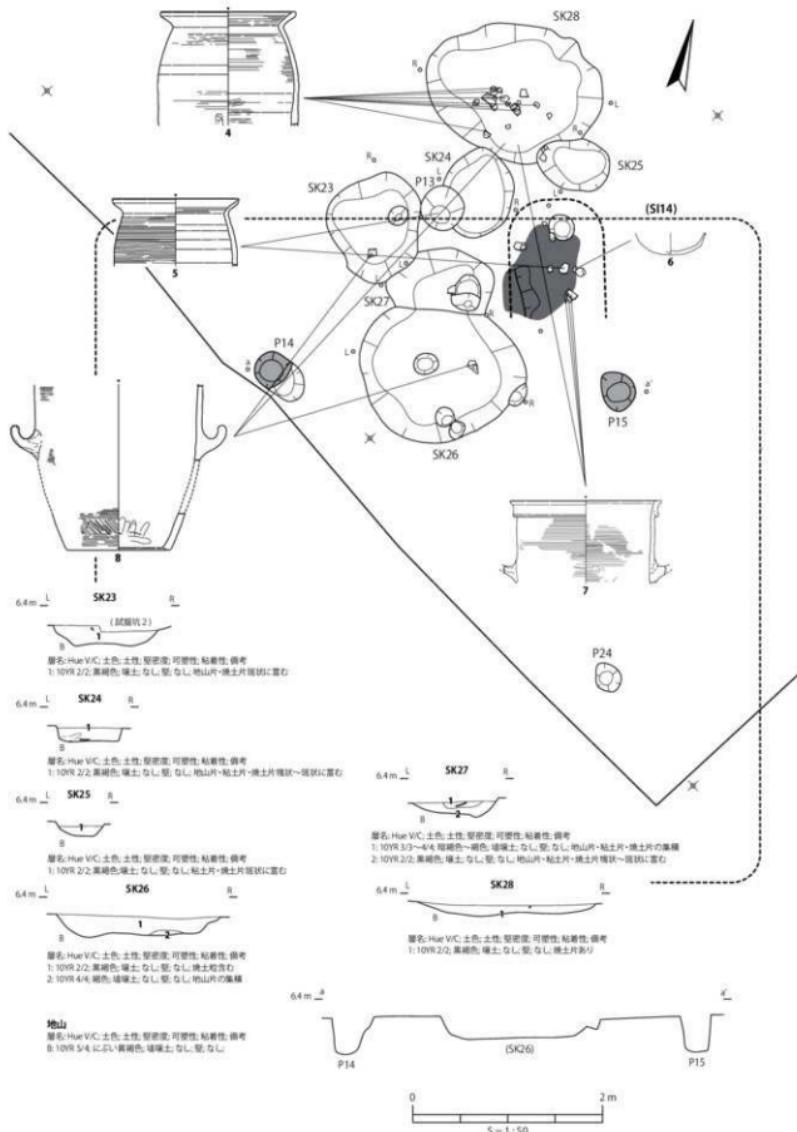
- コ 小松市教育委員会(1991)『戸津古窯跡群I』,石川県
 小松市教育委員会(1993)『戸津古窯跡群III』,石川県
 小松市教育委員会(1993)『二ツ梨豆岡向山古窯跡』,石川県
 小松市教育委員会(2000)『矢田借屋古墳群』,石川県
 小松市教育委員会(2003)『薬師遺跡』,石川県
 小松市教育委員会(2005)『小松市内遺跡発掘調査報告書 I』二ツ梨豆岡向山窯跡,石川県
 小松市教育委員会(2006)『小松市内遺跡発掘調査報告書 II』矢田借屋古墳群,石川県
 小松市教育委員会(2007)『小松市内遺跡発掘調査報告書 III』薬師遺跡,石川県
 小松市教育委員会(2008)『小松市内遺跡発掘調査報告書 IV』薬師遺跡,石川県
 小松市教育委員会(2011)『小松市内遺跡発掘調査報告書 VII』薬師遺跡,石川県
 小松市教育委員会(2012)『小松市内遺跡発掘調査報告書 VIII』薬師遺跡,石川県
 小松市教育委員会(2014)『小松市内遺跡発掘調査報告書 X』矢田借屋古墳群 烏遺跡 吉竹C遺跡,石川県
 小松市教育委員会(2015)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XI』薬師遺跡,石川県
 小松市埋蔵文化財センター(2017)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XIII』二ツ梨豆岡向山窯跡群,石川県
 小松市埋蔵文化財センター(2019)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XIV』二ツ梨豆岡向山窯跡群,石川県
 タ 田嶋 明人(1986)「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
 田嶋 明人(1988)「古代編年軸の設定」『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題(資料編)』北陸古代土器研究会・
 石川考古学研究会,石川県
 モ 望月 精司(2007)「三湖台地集落群の古代前半期土器様相」『額見町遺跡 II』,石川県小松市
 望月 精司(2008)「南加賀地域の平安後期土器群に関する編年的考察」『額見町遺跡 III』,石川県小松市



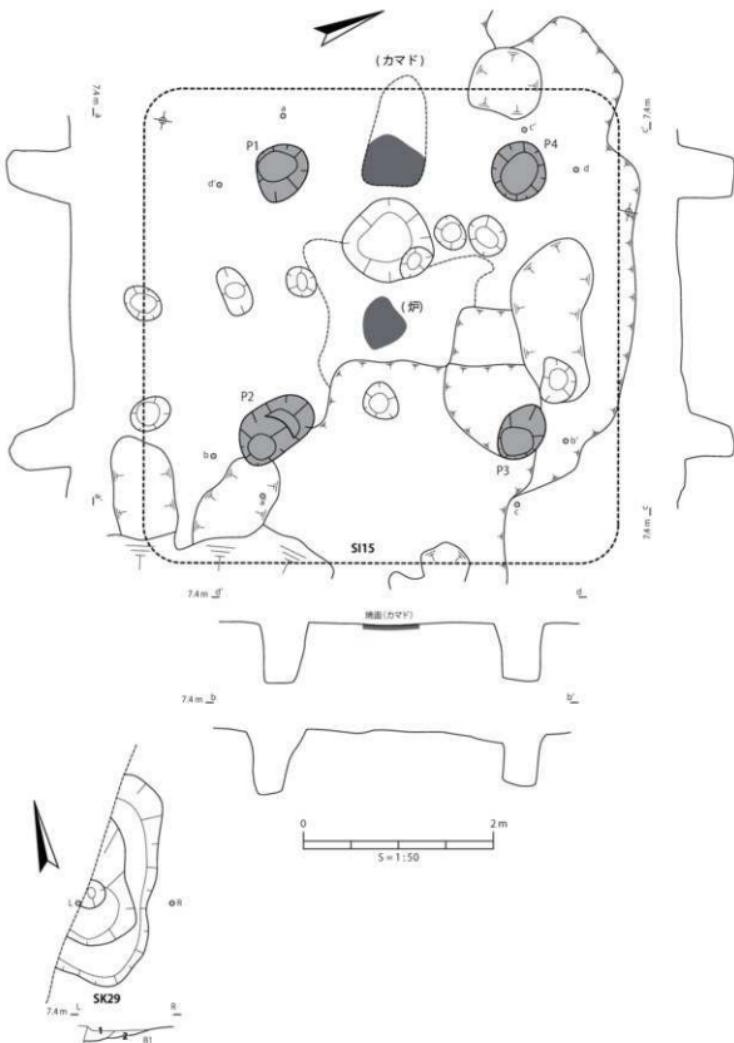
第7図 菓師遺跡 12次 平面図



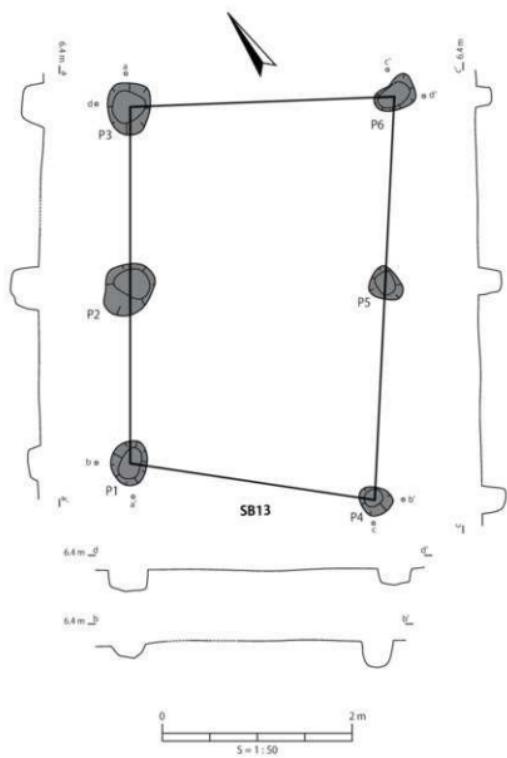
第8図 薬師遺跡 13・14次 平面図



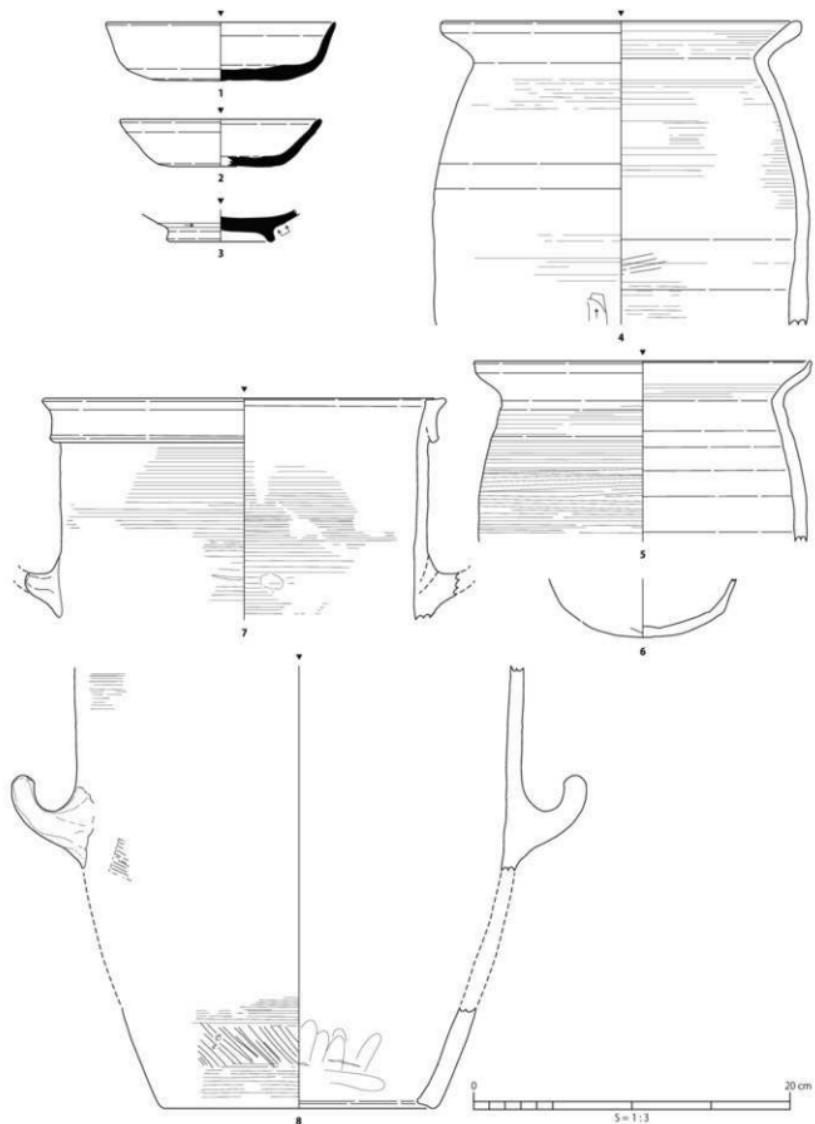
第9図 薬師遺跡 遺構実測図1



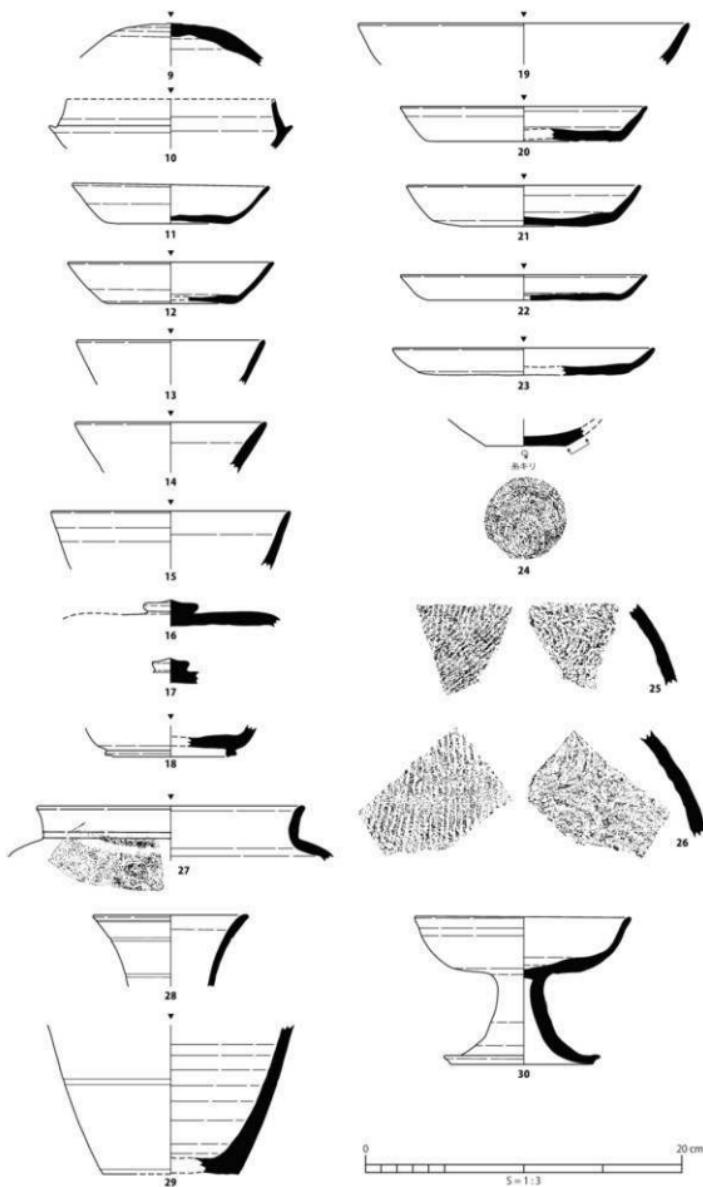
第10図 菜師遺跡 遺構実測図2



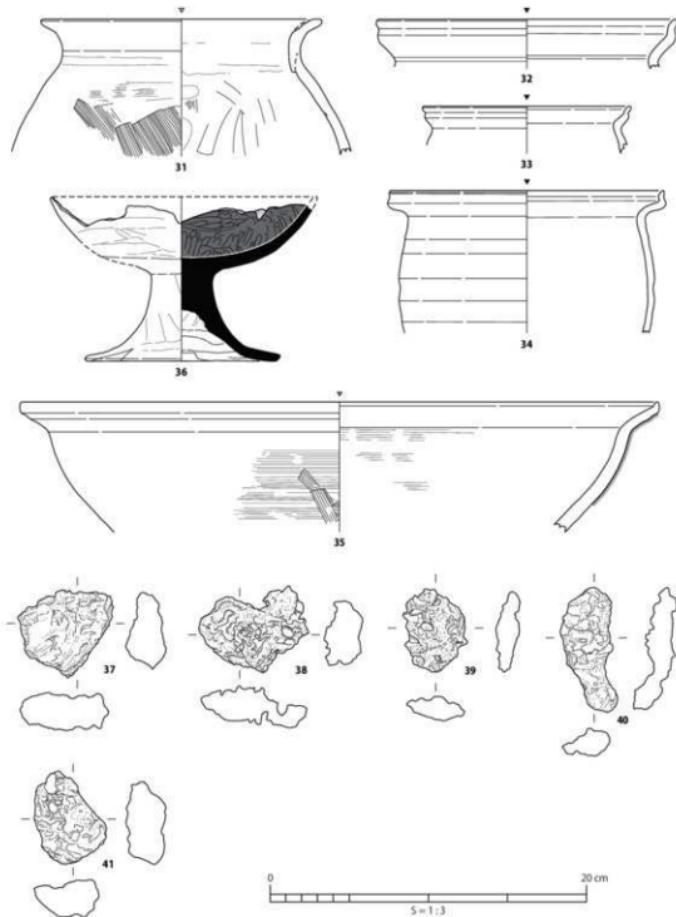
第11図 菩薩遺跡 道構実測図3



第12図 菓師遺跡 出土遺物実測図 1



第13図 菓師遺跡 出土遺物実測図2



第14図 薬師遺跡 出土遺物実測図3

第2表 葬師遺跡 出土遺物属性表

No	実測	出土位置	分類	形態	寸法/種類	表面色調	胎土色調	備考
1	< 26	12th A 古土	遺物群	环	D:14mm/0.278, 厚:9cm/0.197, 高:3.7cm	7.5YR 6/4	N 7/0	
2	< 27	12th B-1 包含層	遺物群	环	D:13cm/0.194, 厚:8cm/0.194, 高:3.0cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
3	< 28	12th B-2 包含層	遺物群	环	D:7cm/0.222	2.5Y 5/1	N 6/0	10c 前半
4	た 35	12th A-2 包含層	土師器	釜	D:23cm/0.722, 厚:19cm/0.722	10YR 8/3	7.5YR 7/6	8c 前半
		12th S14						
		12th SK25						
		12th SK23 #16 #19 #21						
		12th SK23 #25 #26 #31						
5	< 29	12th S14 カマド #6	土師器	釜	D:21cm/0.167, 厚:18cm/0.167	5YR 7/6	5YR 7/6	
6	< 30	12th S14 カマド #5	土師器	釜		7.5YR 8/6	7.5YR 8/6	
7	た 33	12th S14 カマド #1 #2 #3	土師器	釜	D:25cm/0.167	10YR 5/4	5YR 6/6	8c 前半
		12th SK28						
8	た 34	12th SK23 #28	土師器	釜		5YR 7/7	10YR 7/3	8c 前半
		12th SK26 #30						
		12th SK28						
9	た 38	13th A-2	遺物群	环(蓋)		2.5Y 6/1	N 6/0	6c 前半
10	た 39	13th A-2	遺物群	环(身)	受:15cm/0.083	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	6c 前半
11	た 44	13th C-2 (S15) カクラン	遺物群	环	D:12cm/0.389, 厚:8cm/1.000, 高:2.5cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
12	た 45	13th C-2 (S15) カクラン	遺物群	环	D:13cm/0.383, 厚:8cm/0.728, 高:2.6cm	2.5Y 8/2	10YR 8/2	
13	< 33	14th D-1 カクラン	遺物群	环	D:12cm/0.097	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
14	< 34	14th D-1 カクラン	遺物群	环	D:12cm/0.167	2.5Y 7/2	2.5Y 7/1	
15	< 35	14th D-1 カクラン	遺物群	环	D:15cm/0.083	N 6/0	2.5Y 7/1	
16	た 47	12th C-2 (S15) カクラン	遺物群	环(蓋)		N 7/0	2.5Y 6/2	
17	< 37	14th D-1 カクラン	遺物群	环(蓋)		2.5Y 6/1	7.5YR 5/1	
18	< 32	14th D-1 カクラン	遺物群	环(身)	台:8cm/0.167	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
19	< 36	14th D-1 カクラン	遺物群	环	D:21cm/0.083	2.5Y 6/1	2.5Y 7/1	
20	た 42	12th C-1	遺物群	釜	D:16cm/0.111, 底:12cm/0.167, 高:2.2cm	2.5Y 7/1	N 6/0	
21	た 43	13th C-1	遺物群	釜	D:15cm/0.083, 底:11cm/0.347, 高:2.6cm	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
22	た 46	13th C-2 (S15) カクラン	遺物群	釜	D:16cm/0.306, 底:12cm/0.306, 高:2.6cm	2.5Y 7/1	N 6/0	
23	< 31	14th D-1 カクラン	遺物群	釜	D:16cm/0.056, 底:13cm/0.139, 高:1.7cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
24	た 41	14th B-2	遺物群	釜	D:5cm/0.889	N 5/0	N 5/0	10c 前半
25	< 38	14th D-1 カクラン	遺物群	釜		N 6/0	7.5YR 6/1	
26	< 39	14th D-1 カクラン	遺物群	釜		N 5/0	N 6/0	
27	た 48	13th C-2 (S15) カクラン	遺物群	釜	D:17cm/0.083, 底:16cm/0.097	2.5Y 5/1	7.5Y 5/2	8c 後半
28	た 40	13th A-2	遺物群	長颈瓶	D:10cm/0.236	2.5Y 6/1	2.5Y 5/1	
29	た 49	13th C-2 (S15) カクラン	遺物群	双耳瓶	D:9cm/0.306	2.5Y 6/1	10YR 6/1	8c 後半
30	た 36	13th A-2	遺物群	高环	D:14cm/0.275, 底:10cm/0.194, 高:9.4cm	2.5Y 4/1	N 4/0	7c 後半~8c 前半
31	た 52	13th C-2 (S15) カクラン	土師器	釜	D:17cm/0.111, 底:15cm/0.306	5YR 7/6	5YR 7/6	古墳H~後期
32	< 40	14th D-1 カクラン	土師器	釜	D:19cm/0.083, 底:17cm/0.111	10YR 7/3	10YR 7/2	9c 後半
33	< 41	14th D-1 カクラン	土師器	釜	D:13cm/0.097, 底:12cm/0.111	7.5YR 5/3	7.5YR 6/2	9c 後半
34	た 51	13th C-1 P36	土師器	釜	D:17cm/0.125, 底:16cm/0.194	7.5YR 7/4	7.5YR 8/2	10c 前半
35	た 50	13th B-2	土師器	釜	D:10cm/0.083, 底:37cm/0.056	5YR 6/4	7.5YR 8/2	7c 後半~8c 前半
36	た 32	12th SK29	土師器	高环	D:17cm/0.083, 底:12cm/0.722, 高:10.4cm	10YR 6/3 (内壁)	10YR 6/2	7c 後半~8c 前半
37	鰐 03	12th B-1 包含層	遺物群	椭形	D:6.4cm, 幅:5.0cm, 厚:2.3cm, 高:9.20g			磁石 5, メタル H
38	鰐 04	12th B-1 包含層	遺物群	椭形	D:7.0cm, 幅:5.4cm, 厚:2.0cm, 高:70.90g			磁石 2, メタル L
39	鰐 01	12th B-1 包含層	遺物群	椭形	D:3.7cm, 幅:5.3cm, 厚:1.6cm, 重:40.38g			磁石 5, メタル H
40	鰐 02	12th B-1 包含層	遺物群	椭形	D:3.0cm, 幅:5.3cm, 厚:2.3cm, 重:43.49g			磁石 7, メタル H
41	鰐 01	14th F-1 カクラン	遺物群	椭形	D:4.1cm, 幅:6.0cm, 厚:2.3cm, 重:50.82g			磁石 6, メタル H
42	鰐 02	12th B-1 包含層	遺物群	椭形	D:4.6cm, 幅:6.0cm, 厚:2.5cm, 重:17.94g			磁石 6, メタル H
43	鰐 03	12th B-1 包含層	遺物群	ボルト?	D:2.9cm, 幅:2.6cm, 厚:1.9cm, 重:21.13g			磁石 5, メタル H, 特殊 磁石 5 (現代遺物)
鰐 04	12th A-1 包含層	遺物群	釜	D:2.8cm, 幅:1.9cm, 厚:1.4cm, 重:12.19g			磁石 4, メタル H	
鰐 05	12th A-1 包含層	遺物群	釜	D:2.4cm, 幅:2.0cm, 厚:1.8cm, 重:10.35g			磁石 5, メタル L	
鰐 06	12th B-1 包含層	遺物群	釜	D:2.0cm, 幅:1.4cm, 厚:0.6cm, 重:15.0g			磁石 1, メタル L	
鰐 07	12th B-1 包含層	遺物群	釜	D:3.1cm, 幅:2.5cm, 厚:1.0cm, 重:13.88g			磁石 3, メタル H	
鰐 08	12th B-1 包含層	遺物群	釜	D:4.3cm, 幅:2.0cm, 厚:1.5cm, 重:22.77g			磁石 3, メタル L	
鰐 09	12th B-1 包含層	遺物群	釜	D:2.3cm, 幅:1.8cm, 厚:1.0cm, 重:4.61g			磁石 2, メタル L	
鰐 10	12th B-1 包含層	遺物群	釜	D:2.1cm, 幅:1.8cm, 厚:1.3cm, 重:7.36g			磁石 1, メタル L	
鰐 11	12th B-1 包含層	遺物群	釜	D:3.1cm, 幅:2.6cm, 厚:1.4cm, 重:13.43g			磁石 5, メタル H	
鰐 15	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:3.9cm, 幅:2.7cm, 厚:1.5cm, 重:17.07g			磁石 7, メタル H	
鰐 16	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:3.8cm, 幅:2.9cm, 厚:2.3cm, 重:19.29g			磁石 4, メタル L	
鰐 17	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:2.0cm, 幅:1.9cm, 厚:1.5cm, 重:6.16g			磁石 0, メタル L	
鰐 18	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:3.0cm, 幅:2.7cm, 厚:1.5cm, 重:17.07g			磁石 3, メタル H	
鰐 19	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:2.1cm, 幅:1.6cm, 厚:1.3cm, 重:4.94g			磁石 5, メタル H	
鰐 20	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:5.5cm, 幅:2.7cm, 厚:2.0cm, 重:23.73g			磁石 5, メタル H	
鰐 21	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:2.3cm, 幅:1.6cm, 厚:1.3cm, 重:3.07g			磁石 2, メタル L	
鰐 22	12th B-2 包含層	遺物群	釜	D:1.8cm, 幅:1.5cm, 厚:1.3cm, 重:2.02g			磁石 0, メタル L	
鰐 23	12th A-2 包含層	遺物群	釜	D:4.2cm, 幅:3.0cm, 厚:1.6cm, 重:25.28g			磁石 6, メタル H	
鰐 24	12th SK26	遺物群	釜	D:1.9cm, 幅:1.2cm, 厚:1.0cm, 重:1.38g			磁石 2, メタル L	
鰐 25	12th SK26	遺物群	釜	D:2.3cm, 幅:2.0cm, 厚:1.0cm, 重:6.31g			磁石 2, メタル L	
鰐 26	12th B-2 P23	遺物群	釜	D:2.6cm, 幅:2.2cm, 厚:1.7cm, 重:6.26g			磁石 3, メタル H	
鰐 27	12th B-2 P24	遺物群	釜	D:2.1cm, 幅:1.6cm, 厚:1.4cm, 重:2.60g			磁石 1, メタル L	
鰐 28	12th B-2 P25	遺物群	釜	D:4.4cm, 幅:3.3cm, 厚:2.3cm, 重:31.68g			磁石 4, メタル H	
鰐 29	12th B-2 P25	遺物群	釜	D:4.0cm, 幅:2.8cm, 厚:2.5cm, 重:20.55g			磁石 4, メタル H	
鰐 30	12th B-2 P27	遺物群	釜	D:3.0cm, 幅:1.3cm, 厚:1.0cm, 重:6.25g			磁石 3, メタル L	
鰐 31	13th B-4	遺物群	釜	D:4.5cm, 幅:2.6cm, 厚:2.6cm, 重:26.83g			磁石 6, メタル H	
鰐 32	13th B-2	遺物群	釜	D:3.2cm, 幅:1.4cm, 厚:1.4cm, 重:9.68g			磁石 4, メタル H	
鰐 33	13th B-2	遺物群	釜	D:4.7cm, 幅:3.7cm, 厚:2.0cm, 重:47.12g			磁石 4, メタル H	

No	実測	出土位置	分類	趣形	寸法/残率	表面色調	胎土色調	備考
観治 34	13th B-2		縦沟鋤		長:5.1cm、幅:4.8cm、厚:2.1cm、重:68.73g			磁石.5.メタル-H
観治 35	13th B-2		縦沟鋤		長:3.7cm、幅:2.2cm、厚:1.7cm、重:10.14g			磁石.3.メタル-H
観治 36	13th B-2		縦沟鋤		長:4.0cm、幅:3.7cm、厚:1.8cm、重:24.03g			磁石.5.メタル-H
観治 37	13th B-2		縦沟鋤		長:3.7cm、幅:2.1cm、厚:2.2cm、重:19.03g			磁石.5.メタル-L
観治 38	13th B-2		縦沟鋤		長:2.4cm、幅:1.7cm、厚:1.2cm、重:7.30g			磁石.2.メタル-H
観治 39	13th C-1		縦沟鋤		長:3.0cm、幅:2.0cm、厚:1.9cm、重:14.99g			磁石.3.メタル-H
観治 40	13th C-1		縦沟鋤		長:3.8cm、幅:2.8cm、厚:2.2cm、重:29.70g			磁石.4.メタル-H
観治 41	13th C-2 (S115) カクラン		縦沟鋤		長:3.2cm、幅:2.2cm、厚:2.7cm、重:17.30g			磁石.5.メタル-H
観治 42	13th C-2 (S115) カクラン		縦沟鋤		長:3.9cm、幅:3.0cm、厚:2.0cm、重:33.83g			磁石.6.メタル-L
観治 43	13th C-2 (S115) カクラン		縦沟鋤		長:2.8cm、幅:1.7cm、厚:1.5cm、重:10.56g			磁石.5.メタル-H
観治 44	13th C-2 P48		椎化鉄の 足標		長:2.5cm、幅:2.3cm、厚:0.3cm、重:1.99g			除外(自然物)
観治 45	13th C-2 P48		縦沟鋤		長:3.5cm、幅:2.4cm、厚:1.4cm、重:11.32g			磁石.3.メタル-H
観治 46	13th D-1 カクラン		縦沟鋤		長:2.5cm、幅:1.7cm、厚:1.5cm、重:6.24g			磁石.2.メタル-L
観治 47	13th D-1 カクラン		縦沟鋤		長:3.0cm、幅:2.0cm、厚:2.2cm、重:17.56g			磁石.4.メタル-H
観治 48	13th D-1 カクラン		縦沟鋤		長:4.3cm、幅:3.1cm、厚:2.7cm、重:41.95g			磁石.6.メタル-H
観治 49	13th D-1 カクラン		縦沟鋤		長:2.7cm、幅:2.1cm、厚:1.7cm、重:8.83g			磁石.1.メタル-L

第 III 章 島遺跡発掘調査

第 1 節 調査の概要

1.既往の調査

島遺跡は、從前より台地上の畠地に須恵器・土師器の散布が知られ、土取跡の崖面に竪穴住居跡の断面が露出するなど、埋蔵文化財包蔵地であることは周知されていた。

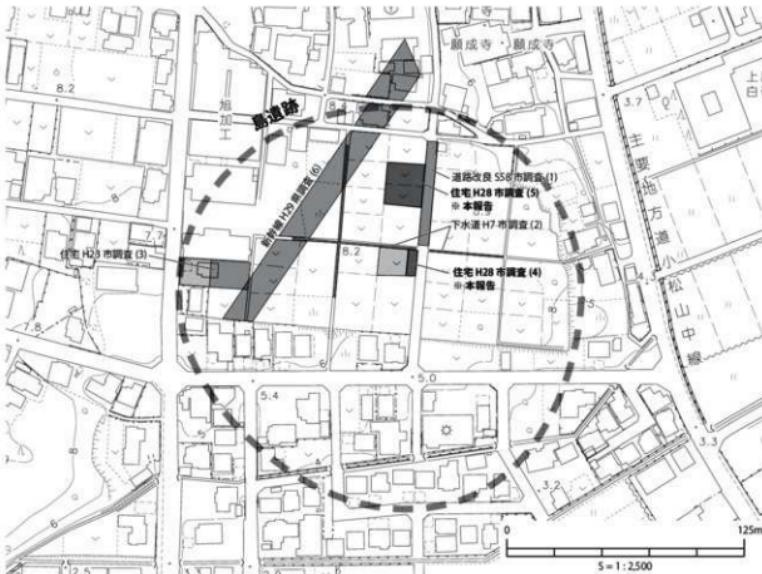
最初の発掘調査は、昭和 58 年度に小松市建設部土木課（当時）の市道改良工事に係り小松市教育委員会（以下、市教委）が実施した（第 1 次調査）。その後、平成 5 年には木場潟汚水幹線計画によつて市道および町道に下水道が敷設されることとなり、小松市建設部下水道課（当時）と市教委の協議の結果、平成 7 年度に町道の施工範囲について発掘調査を実施した（第 2 次調査）。

これらの調査の結果、島遺跡は弥生時代～中世にわたる複合遺跡であり、遺物の出土量からは 8 世紀後半～9 世紀前半が主体であり、時期は特定できないが製陶・製鉄と関わりを持つ性格の集落遺跡と考えられることが報告されている。

第 3 次調査は、平成 23 年度に個人住宅建築を原因として実施された。溝 2 条と須恵器・土師器を少量出土したのみだったが、集落の周縁領域の一部と考えられた。

2.調査に至る経緯

平成 28 年 3 月から 4 月にかけて、島遺跡の範囲内で 2 件の個人住宅建築計画が明らかになり、埋蔵文化財センターと協議がもたれた。試掘調査の結果、2 件とも埋蔵文化財が確認され、その保護



第 15 図 島遺跡 調査地の位置

措置が必要な旨の回答を行なった。

1 件目は、平成 28 年 3 月 7 日付けで協議、平成 28 年 3 月 17 日に試掘調査を実施した。住宅の建築計画自体は地盤改良を伴わず、ベタ基礎施工により埋蔵文化財への影響はないとの判断されたが、台地を下りる坂道に面する位置にあるため、外構工事が埋蔵文化財に及ぶことから、この範囲 54m²を発掘調査による記録保存の対象とした。文化財保護法第 93 条に基づく発掘届等の事前に必要な手続きを経て、これを第 4 次調査として、平成 28 年 5 月 16 日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

2 件目は、第 4 次調査の準備に取り掛かりつつある平成 28 年 4 月 7 日付けで協議、平成 28 年 5 月 2 日に試掘調査を実施した。こちらの方は、設計 GL からベタ基礎が埋蔵文化財の深さに及び、基礎の範囲 159m²を発掘調査による記録保存の対象とした。文化財保護法第 93 条に基づく発掘届等の事前に必要な手続きを経て、これを第 5 次調査として、第 4 次調査の作業完了日となる平成 28 年 5 月 24 日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

3 調査の方法

土地境界のプレートまたは杭に原点（A-1）を設定して、土地境界を軸にして 5m 間隔のグリッドとした。

遺構の実測は、着手前に 4 級基準点を委託業務により設置し、これを与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

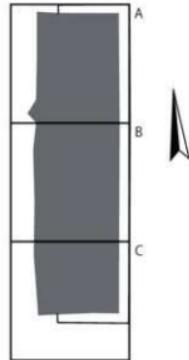
平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図・断面図ともに 20 分の 1 である。

4 調査の経過

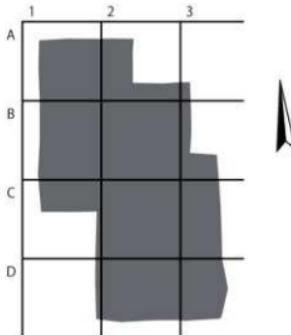
第 4 次調査 5 月 16 日に重機を手配して表土除去、翌日より作業員を入れて包含層の掘削を開始した。調査範囲が狭いこともあり、包含層は 2 日で掘削を完了し、目立つ遺構がないこともこの時点で確認された。5 月 23 日には完掘、翌日にかけて平面図を作成し、調査を完了した。

第 5 次調査 5 月 17 日の時点で発掘調査による記録保存で対応することが決まり、第 4 次調査が完了する 5 月 24 日に重機による表土除去を実施したが、この時点で遺物が集中的に出土する箇所があった。翌日からの包含層掘削は、遺物集中と遺構との関係に留意したが、結果、廐棄土坑など関連する遺構は確認されず、包含層自体が二次的包含層であり、整地等で遺跡の一部が削平された際に出土した土器を埋めたものだろうと推量された。17 号溝や 5 号土坑など目立つ遺構はあったが、出土遺物の大部分が土器集中に含まれるものであり、それ以外では疎らな包含状況だった。

6 月 3 日に断面図まで含めて作業が完了し、6 日に全景撮影、12 日までに平面図作成・埋め戻しまで含めて、調査を完了した。



第 16 図 島遺跡 4 次 グリッド配点図



第 17 図 島遺跡 5 次 グリッド配点図

第2節 遺構と遺物

1 遺構（第18～20図）

(1) 溝

SD17 区画溝の一部と考えられる。覆土は片側から流れ込んだ状況が読み取れ、方角で言えば北側から埋め戻されたと考えられる。

SD18 非常に細い区画溝の一部と考えられる。

SK08 底面が辛うじて検出された溝だが、この延長上に関連する凹みは検出されず、調査中は土坑の範疇で遺構番号を付した。南側のSK09に接続し、掘方はここで明らかに途切れている。SK09に水を引き込む溝の可能性が考えられるが、水の流れたような痕跡は見出されなかった。

(2) 土坑

SK05 長方形プランで箱型に掘り凹められている。覆土はよくほぐれており、搅乱坑の可能性があるが、現代遺物の混入等は認められなかった。

SK06 楕円形プランで掘方は鉢状である。SD17との切り合い関係は不明だが、埋め戻された痕跡は認められず、単独の土坑である。

SK07 表土除去段階から帶状に分布する遺物の集中が見られた直下で検出された。略円形プランで掘方は鉢状である。遺物の分布は、耕地整理等の整地によるものと考えられ、当該土坑との関連も一度は考えたが、出土レベルはほぼ耕作層直下であり、工事中に出土した遺物を無造作に埋めた可能性は否めない。

SK09 円形プランで掘方は筒状である。SK08との接続部分に傾斜が設けられており、これを含めると、上端のプランは卵形を呈する。

2 遺物（第21～24図）

(1) 弥生時代末～古墳時代前期の遺物（1～2・12～15）

12は庄内期のものと思われる彫形土器（釜）である。出土土器のうち古墳時代より遡ると考えられるのは、これ1点のみである。

1は高环の环部、2は高环の脚部、13～14は器台の脚部であり、脚部はすべて裾がハの字に広がる。15は鉢形の小型土器である。

(2) 古代の遺物（3～11・16～57）

3～8・16～41は須恵器の食膳具であり、16～17は环H、18～19は環Gかそれに近い環A、3・20～25は環A、4～5・26～41は環Bの蓋と身、6は盤A、7～8は盤Bの身である。

42は土師質の环Bであり、内外面及び底面（すなわち全面）に赤彩が施されている。

9は須恵器の調理具であり、鉢である。

10～11・43～49は須恵器の貯蔵具であり、43～44は甕、10・45は甕の蓋、11は壺、46～47は長頸瓶、48～49は横瓶である。

50～54は土師器の煮炊具であり、50～51は鍋、52～53は長胴釜である。54は小型の釜か。

55～57は土師器の食膳具であり、55は高环、56～57は有台塊である。56は内黒処理されている。

(3) その他（58～62）

58～59は碧玉質岩の玉作関連遺物である。59は施溝分割された形削品であり、弥生時代中期のものである。

60～62は鍛冶関連遺物である。20点を整理したが、すべて鍛治滓であり、楕形を呈する3点を実測図化した。

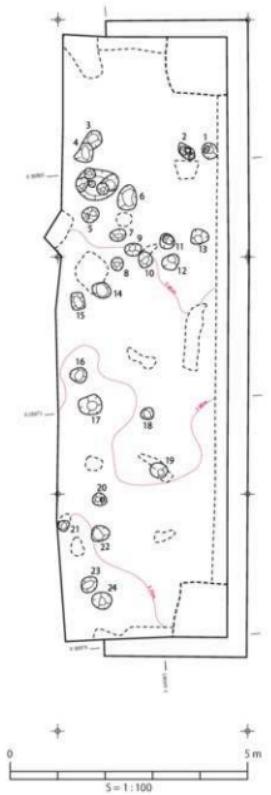
第3節　まとめ

今調査出土遺物の大半は第5次調査区の土器集中のものだが、土木工事等で元の地形の起伏が均される過程でまとめて廃棄されたと思われる。また、遺構出土の遺物はそれぞれの時期を検討する材料にできる出土状況に恵まれなかったものの、全体としてみれば7世紀代～8世紀代の範疇に収まる。既往の調査では、8世紀後半～9世紀前半主体（小松市教委1998）、8世紀後半（小松市教委2014）と報告されているから、これらとの比較の限りでは相対的に古い時期の資料といえる。

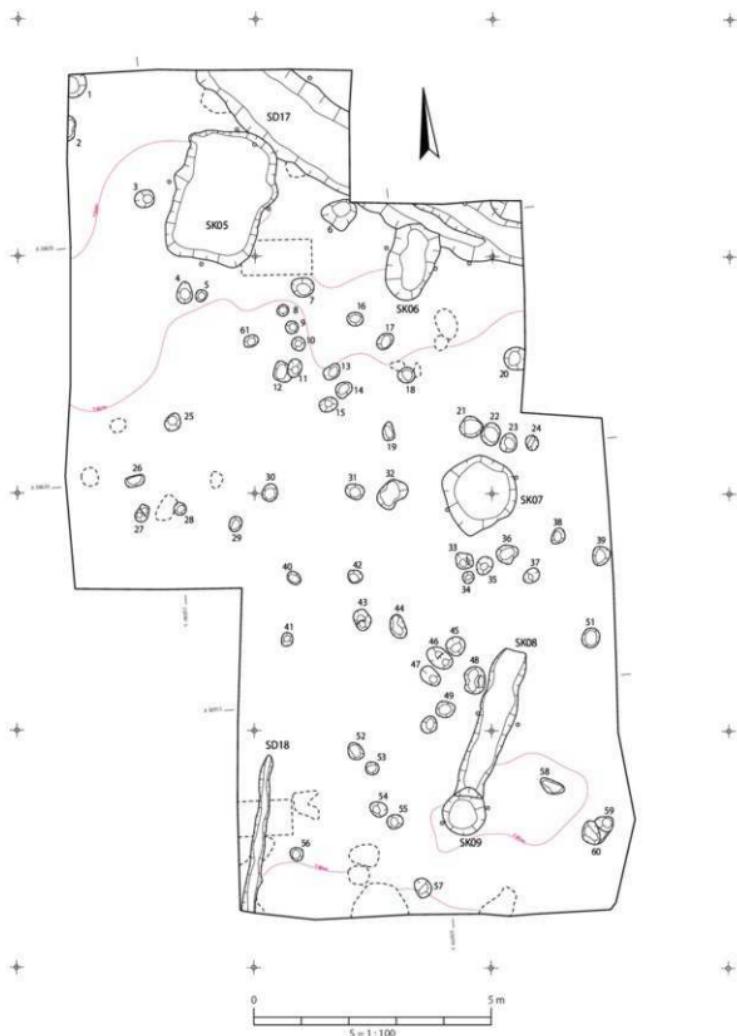
今調査から今報告までの間に、北陸新幹線建設に係る発掘調査が実施され、報告書も刊行された（石川県教委ほか2019）。島遺跡の発掘調査としては最大規模であり、今調査を含めた市調査の所見に加えて中世の遺構と遺物も明らかになり、調査成果としては大きく進展した。

参考文献

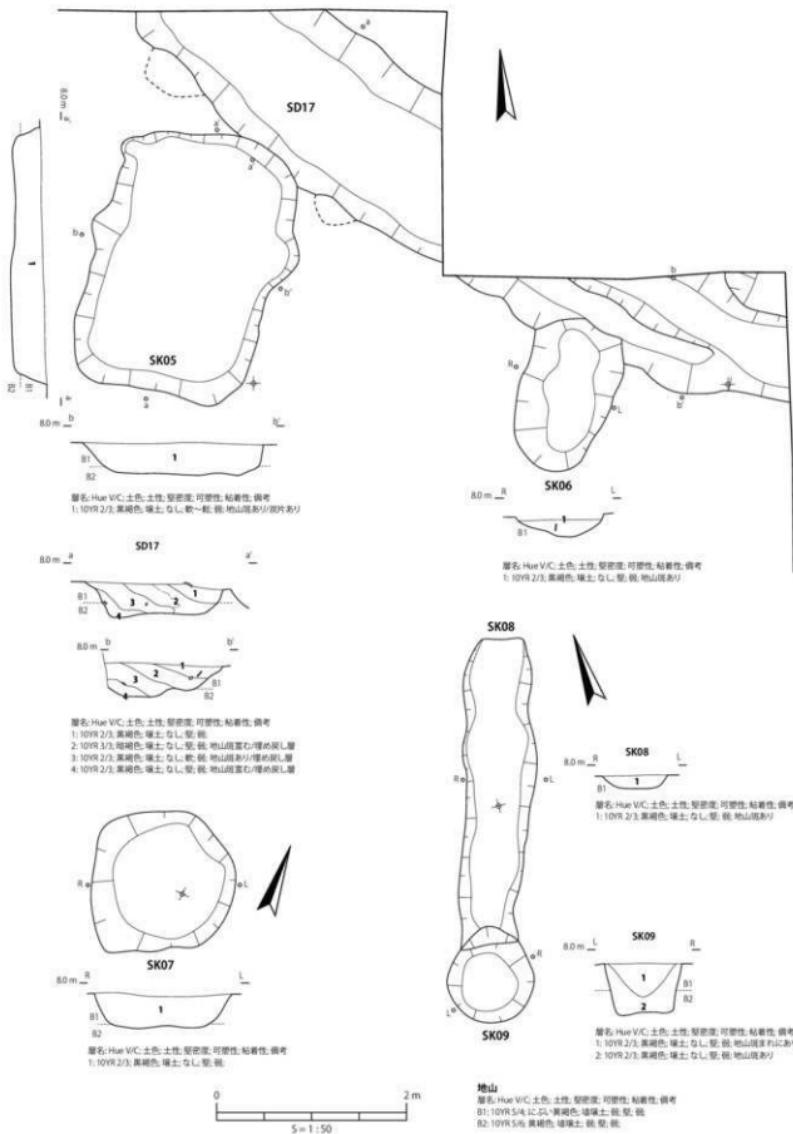
- イ 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター(2019)『小松市島遺跡』
- (公財)石川県埋蔵文化財センター(2018)『島遺跡』『石川県埋蔵文化財情報』39
- コ 小松市教育委員会(1991)『戸津古窯跡群I』,石川県
小松市教育委員会(1993)『戸津古窯跡群III』,石川県
小松市教育委員会(1993)『二ツ梨豆岡向山古窯跡』,石川県
小松市教育委員会(1998)『島遺跡』,石川県
小松市教育委員会(2000)『矢田借屋古墳群』,石川県
小松市教育委員会(2005)『小松市内遺跡発掘調査報告書I』二ツ梨豆岡向山窯跡,石川県
小松市教育委員会(2006)『小松市内遺跡発掘調査報告書II』矢田借屋古墳群,石川県
小松市教育委員会(2015)『小松市内遺跡発掘調査報告書X』矢田借屋古墳群 窯跡 古竹C遺跡,石川県
小松市埋蔵文化財センター(2017)『小松市内遺跡発掘調査報告書XII』二ツ梨豆岡向山窯跡群,石川県
小松市埋蔵文化財センター(2019)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XIV』二ツ梨豆岡向山窯跡群,石川県
- タ 田嶋 明人(1986)『漆町遺跡出土土器の編年的考察』『漆町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
田嶋 明人(1988)『古代編年軸の設定』『シンボジウム北陸古代土器研究の現状と課題(資料編)』北陸古代土器研究会・石川考古学研究会,石川県
- モ 望月 精司(2007)『三淵台地集落群の古代前半期土器様相』『鶴見町遺跡II』,石川県小松市
望月 精司(2008)『南加賀地域の平安後期土器群に関する編年的考察』『鶴見町遺跡III』,石川県小松市



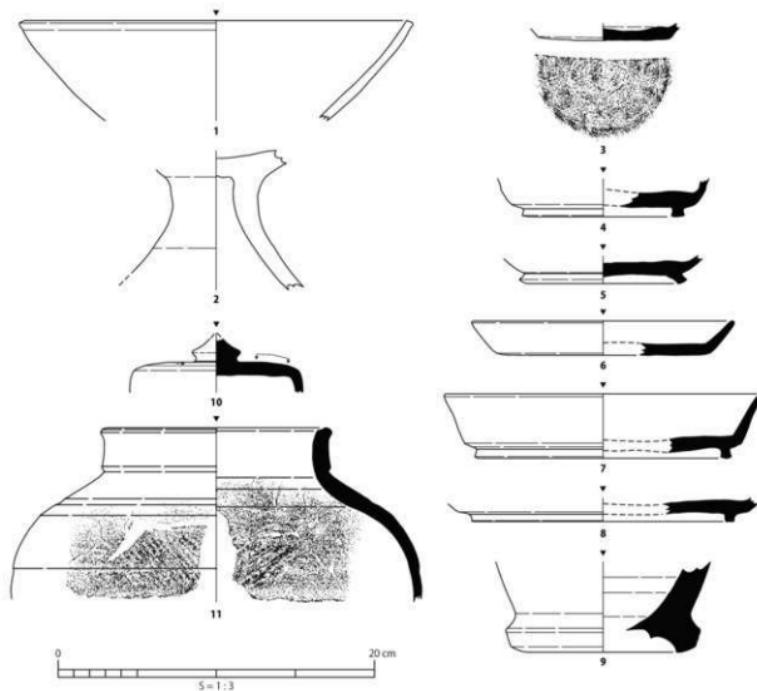
第18図 島遺跡 4次平面図



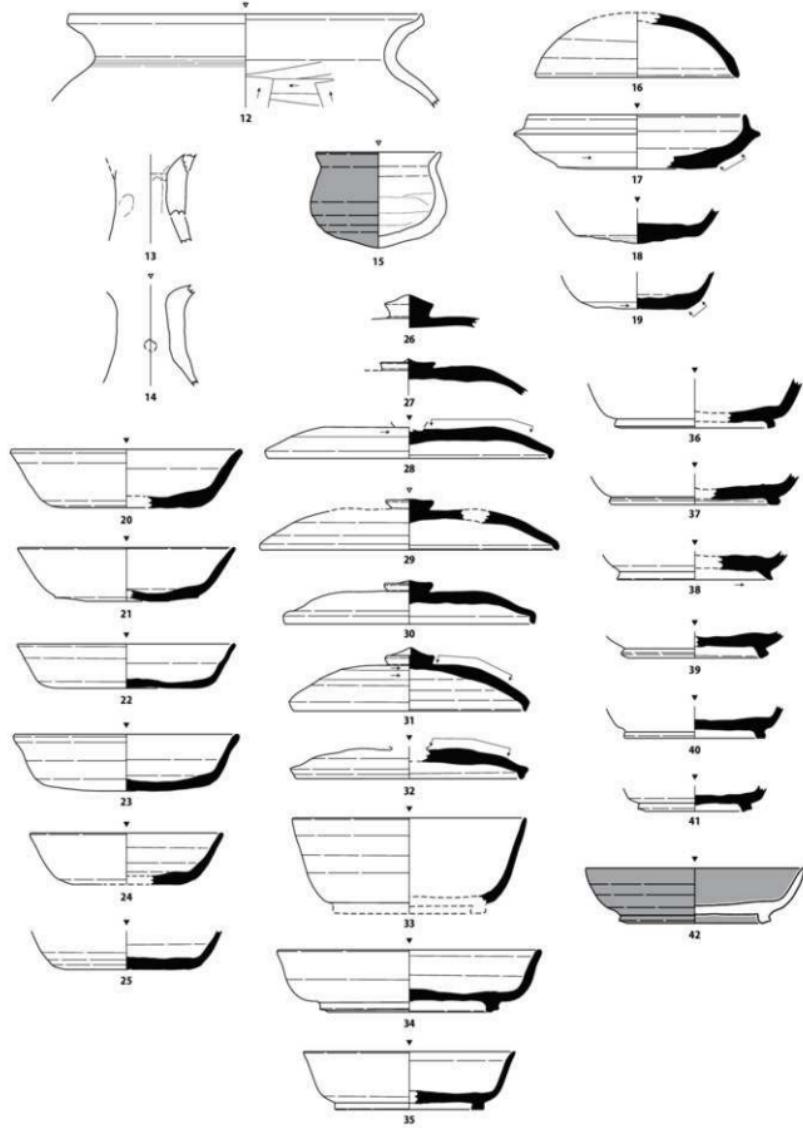
第 19 図 島遺跡 5 次 平面図



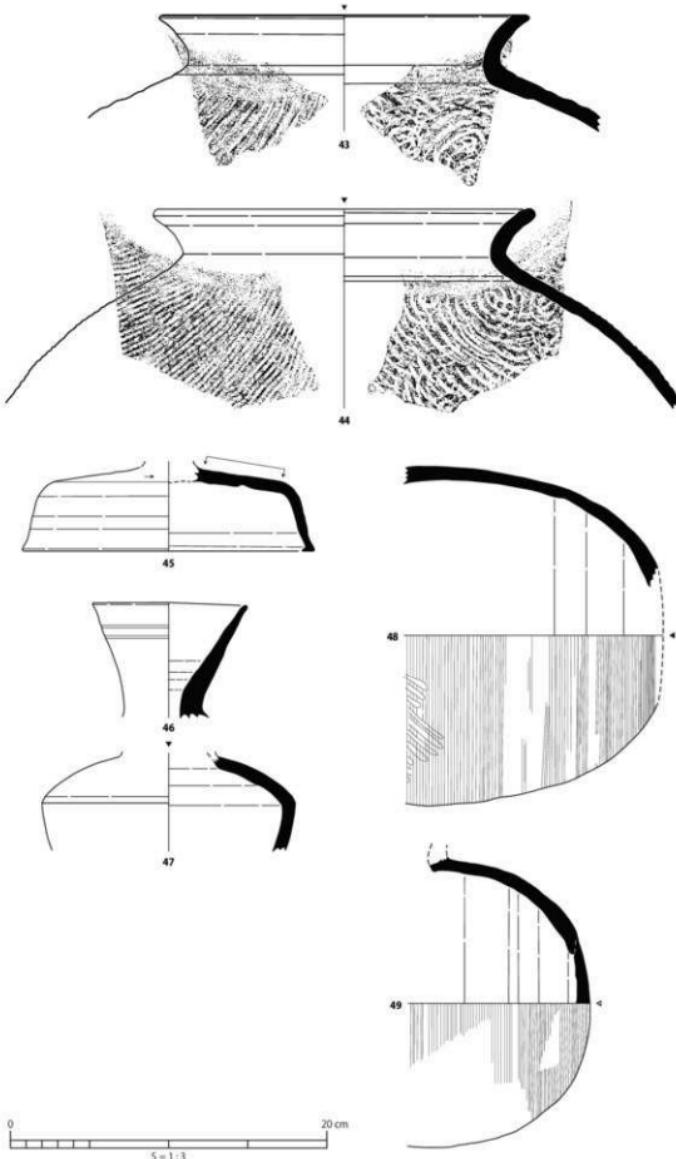
第 20 図 島遺跡 遺構実測図



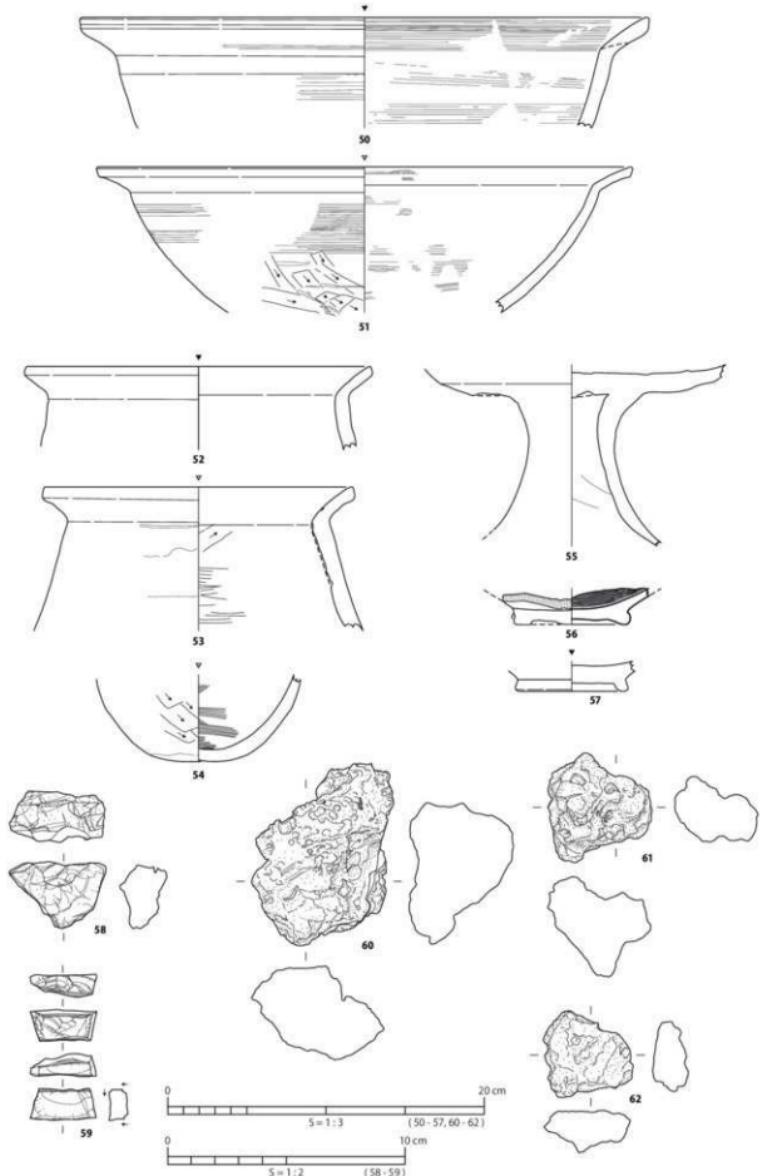
第 21 図 島遺跡 出土遺物実測図 1



第22図 島遺跡 出土遺物実測図2



第 23 図 島遺跡 出土遺物実測図 3



第24図 島遺跡 出土遺物実測図4

第3表 島遺跡 出土遺物属性表

No	実測	出土位置	分類	器形	寸法/比率	表面色調	胎土色調	備考
1	< 20	4th B 回合縫	土師器	高环(片)	口:24cm/0.167	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳前期
2	< 21	4th B 回合縫	土師器	高环(脚)		7.5YR 7/4	7.5YR 7/4	古墳前期
3	< 01	4th B 回合縫	土師器	环(脚)	底:9cm/0.556	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
4	< 02	4th A 回合縫	土師器	环(身)	台:10cm/0.250	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
5	< 03	4th B 回合縫	土師器	环(身)	台:10cm/0.250	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
6	< 04	4th A 回合縫	土師器	盤	口:16cm/0.167, 底:13cm/0.167, 高:2.2cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
7	< 06	4th A 回合縫	土師器	盤(身)	口:20cm/0.167, 台:16cm/0.167, 高:4.1cm	2.5Y 7/1	2.5Y 8/1	
8	< 05	4th A 回合縫	土師器	盤(身)	台:17cm/0.111	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
9	< 07	4th A 回合縫	土師器	盤(蓋)		2.5Y 7/1	10YR 7/2	
10	< 09	4th A 回合縫	土師器	甕	口:14cm/0.194, 底:14cm/0.278	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
11	< 08	4th A 回合縫	土師器	甕	底:12cm/0.583	2.5Y 7/2	N 7/0	
12	< 19	5th SK006	骨牛・鹿	鹿形	口:22cm/0.083, 腹:19cm/0.083	5YR 7/4	2.5Y 5/1	骨牛・鹿
13	< 18	5th C 3 土塚集中	土師器	鹿形(脚)		5YR 7/6	7.5Y 7/4	古墳前期
14	< 23	5th C 3 土塚集中	土師器	鹿形(脚)		5YR 7/6	5YR 7/6	古墳前期
15	< 19	5th C 2-3 土塚集中 P37	土師器	小型罐	口:8cm/0.278, 底:7cm/0.278, 高:6.1cm	2.5Y 6/6 (赤彩)	10YR 8/3	古墳前期
16	< 13	5th SK005	土師器	环(脚)	口:13cm/0.583	10YR 7/1	10YR 7/2	7c 前半
17	< 14	5th SK000	土師器	环(身)	口:14cm/0.250, 台:10cm/0.34	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	7c 前半
18	< 17	5th SK005	土師器	环(脚)	底:7cm/0.333	N 6/0	2.5Y 7/1	7c
19	< 16	5th C 3 土塚集中	土師器	环(脚)	底:6cm/1.000	N 5/0	10YR 7/2	7c
20	< 15	5th SK005	土師器	环(脚)	口:15cm/0.194, 底:10cm/0.444, 高:3.7cm	N 6/0	N 6/0	
21	< 16	5th SK005	土師器	环(脚)	口:14cm/0.167, 底:9cm/0.333, 高:3.4cm	2.5Y 7/1	10YR 6/2	
22	< 07	5th C 2 土塚集中	土師器	环(脚)	口:14cm/0.139, 底:10cm/0.583, 高:2.8cm	N 5/0	2.5Y 5/1	
23	< 08	5th C 2 土塚集中	土師器	环(脚)	口:14cm/0.278, 底:10cm/0.583, 高:3.6cm	10YR 8/2	7.5YR 8/3	
24	< 31	5th C 3 土塚集中	土師器	环(脚)	口:12cm/0.278, 底:6cm/0.333, 高:3.3cm	2.5Y 7/2	2.5Y 7/3	
25	< 24	5th C 3 土塚集中	土師器	环(脚)	底:8cm/0.472	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
26	< 12	5th SD17 ■	土師器	环(蓋)		10YR 5/1	7.5YR 7/3	
27	< 09	5th C 3 土塚集中	土師器	环(蓋)		2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
28	< 03	5th C 2 土塚集中	土師器	环(蓋)	口:18cm/0.333	N 5/0	7.5Y 6/2	
29	< 25	5th C 3 土塚集中	土師器	环(蓋)	口:19cm/0.083	N 5/0	N 5/0	7c 後半 ~ 8c 前半
30	< 11	5th C 3 土塚集中	土師器	环(蓋)	口:16cm/0.167, 底:2.7cm	N 5/0	N 5/0	7c 後半 ~ 8c 前半
31	< 14	5th C 3 土塚集中	土師器	环(蓋)	口:15cm/0.306, 高:4.0cm	N 6/0	10YR 7/2	7c 後半 ~ 8c 前半
32	< 10	5th C 3 土塚集中	土師器	环(蓋)	口:14cm/0.444	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	7c 後半 ~ 8c 前半
33	< 13	5th C 3 土塚集中	土師器	环(身)	口:15cm/0.306	N 6/0	N 4/0	
34	< 13	5th C 3 土塚集中	土師器	环(身)	口:16cm/0.278, 台:10cm/0.194, 高:3.9cm	2.5Y 6/1	2.5Y 5/1	
35	< 15	5th C 3 土塚集中	土師器	环(身)	口:13cm/0.028, 台:9cm/0.500, 高:3.7cm	N 4/0	N 6/0	
36	< 03	5th C 2 土塚集中	土師器	环(身)	口:10cm/0.361	10YR 6/1	10YR 6/2	
37	< 01	5th C 2 土塚集中	土師器	环(身)	口:11cm/0.194	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
38	< 10	5th SD17 ■	土師器	环(身)	口:10cm/0.111	2.5Y 6/1	N 5/0	
39	< 02	5th C 2 土塚集中	土師器	环(身)	底:9cm/0.333	N 5/0	2.5Y 6/1	
40	< 04	5th C 2 土塚集中	土師器	环(身)	底:9cm/0.333	2.5Y 7/2	7.5YR 7/4	
41	< 11	5th SD17 ■	土師器	环(身)	底:10cm/0.333	10YR 6/1	N 5/0	
42	< 18	5th SK005	土師器	环(身)	口:14cm/0.194, 底:10cm/0.472, 高:3.5cm	10YR 6/2 (赤彩)	7.5YR 7/4	
43	< 21	5th C 3 土塚集中	土師器	瓶	口:23cm/0.33, 底:20cm/0.111	2.5Y 6/1	7.5YR 6/2	8c 前半
44	< 22	5th C 2 土塚集中	土師器	瓶	口:24cm/0.194, 底:20cm/0.194	2.5Y 6/1	10YR 7/3	8c 前半
45	< 06	5th C 2 土塚集中	土師器	瓶(蓋)	口:18cm/0.194	10YR 6/1	10YR 7/2	
46	< 12	5th B 2-3 土塚集中	土師器	反彌輪	口:10cm/0.917, 底:5cm/1.000	N 6/0	10YR 6/2	
47	< 23	5th C 2-3 土塚集中	土師器	反彌輪	口:16cm/0.333	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
48	< 26	5th C 2 土塚集中	土師器	楕瓶		N 4/0	N 6/0	
49	< 27	5th C 2 土塚集中	土師器	楕瓶		N 4/0	N 6/0	
50	< 28	5th C 2 土塚集中	土師器	椭	口:36cm/0.194, 底:32cm/0.194	7.5YR 8/4	10YR 8/3	8c 後半
51	< 20	5th C 2 土塚集中 P23	土師器	椭	口:34cm/0.042, 底:30cm/0.042	7.5YR 8/4	10YR 8/3	8c 後半
52	< 29	5th C 2 土塚集中	土師器	椭	口:22cm/0.111, 底:19cm/0.167	5YR 7/6	10YR 7/4	8c 後半
53	< 17	5th C 3 土塚集中	土師器	椭	口:19cm/0.167, 底:16cm/0.194	7.5YR 7/6	10YR 8/4	8c 後半
54	< 24	5th C 2 土塚集中	土師器	小甕		5YR 7/6	10YR 8/4	7c 前半
55	< 23	5th C 3 土塚集中 SK008	土師器	高环		7.5YR 8/6	7.5YR 8/6	
56	< 30	5th C 1 回合縫	土師器	椭	口:7cm/1.000	7.5YR 8/6 (内黒)	10YR 8/4	11 c
57	< 22	5th C 3 土塚集中	土師器	椭	口:7cm/0.306	5YR 7/6	10YR 8/3	
58	< 26	5th A 2 回合縫	製玉・石器	段	2.28cm/幅:4.1cm, 厚:2.1cm, 高:21.42g		野玉・石器	
59	< 02	5th A 1 回合縫	製玉・石器	形削	段:2.28cm/幅:1.3cm, 厚:0.9cm, 重:4.45g		野玉・石器	
60	網石 12	5th C 3 土塚集中	網石	柳形	段:9.1cm/幅:12.4cm, 厚:7.1cm, 重:690.8g		網石 9・メタル-H	
61	網石 10	5th C 2 土塚集中	網石	柳形	段:6.3cm/幅:7.0cm, 厚:5.4cm, 重:217.66g		網石 6・メタル-H	
62	網石 20	5th SD17 ■	網石	柳形	段:5.5cm/幅:6.1cm, 厚:2.7cm, 重:64.23g		網石 2・メタル-H	
63	網石 01	5th A 1 回合縫	網石	柳形	段:2.3cm/幅:1.7cm, 厚:1.5cm, 重:10.14g		網石 3・メタル-H	
64	網石 02	5th A 1 回合縫	網石	柳形	段:2.4cm/幅:2.1cm, 厚:1.1cm, 重:7.93g		網石 1・メタル-H	
65	網石 03	5th A 2 回合縫	網石	柳形	段:2.4cm/幅:1.7cm, 厚:1.4cm, 重:9.16g		網石 3・メタル-H	
66	網石 04	5th A 2 回合縫	網石	柳形	段:2.7cm/幅:2.1cm, 厚:1.8cm, 重:11.13g		網石 3・メタル-H	
67	網石 05	5th A 2 回合縫	網石	柳形	段:2.2cm/幅:1.5cm, 厚:1.1cm, 重:4.42g		網石 3・メタル-H	
68	網石 06	5th B 2-P21	網石	柳形	段:5.0cm/幅:3.7cm, 厚:2.7cm, 重:40.08g		網石 5・メタル-H	
69	網石 07	5th B 3 土塚集中	網石	柳形	段:4.5cm/幅:3.4cm, 厚:2.4cm, 重:30.72g		網石 4・メタル-H	
70	網石 08	5th B 3 土塚集中	網石	柳形	段:2.9cm/幅:2.5cm, 厚:2.4cm, 重:15.96g		網石 3・メタル-H	
71	網石 09	5th C 2 土塚集中	網石	柳形	段:1.8cm/幅:1.6cm, 厚:1.1cm, 重:6.86g		網石 2・メタル-H	
72	網石 11	5th C 3 土塚集中	網石	柳形	段:4.3cm/幅:2.8cm, 厚:1.9cm, 重:25.85g		網石 5・メタル-H	
73	網石 13	5th SD17 ■	網石	柳形	段:3.3cm/幅:3.2cm, 厚:2.8cm, 重:13.30g		網石 3・メタル-H	
74	網石 14	5th SD17 ■	網石	柳形	段:4.2cm/幅:3.9cm, 厚:2.8cm, 重:41.93g		網石 3・メタル-H	
75	網石 15	5th SD17 ■	網石	柳形	段:2.8cm/幅:1.4cm, 厚:1.2cm, 重:7.2g		網石 4・メタル-H	
76	網石 16	5th SD17 ■	網石	柳形	段:2.5cm/幅:1.9cm, 厚:1.7cm, 重:9.78g		網石 5・メタル-H	
77	網石 17	5th SD17 ■	網石	柳形	段:2.2cm/幅:2.8cm, 厚:2.0cm, 重:15.74g		網石 6・メタル-H	
78	網石 18	5th SD17 IV	網石	柳形	段:4.2cm/幅:2.7cm, 厚:2.0cm, 重:19.95g		網石 5・メタル-H	
79	網石 19	5th SD17 ■	網石	柳形	段:5.2cm/幅:3.8cm, 厚:2.0cm, 重:36.91g		網石 5・メタル-H	

第 IV 章 矢崎宮の下遺跡発掘調査

第 1 節 調査の概要

1. 既往の調査

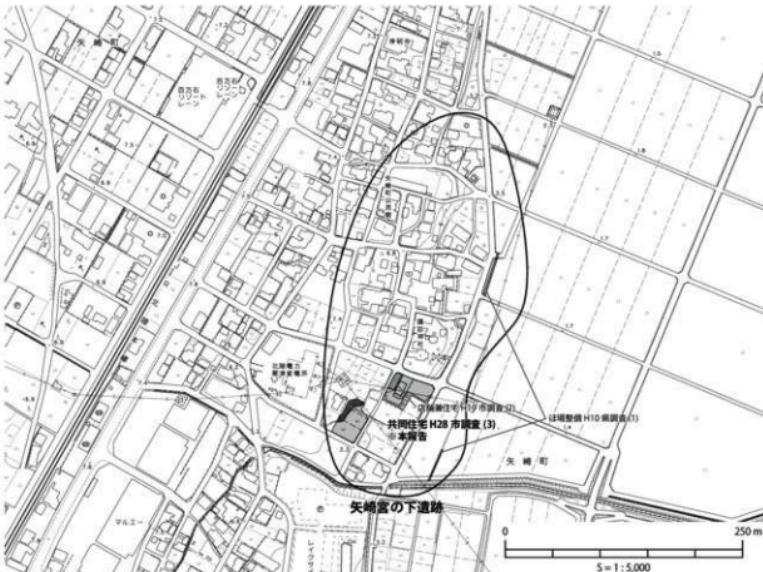
矢崎宮の下遺跡は、県営ほ場整備事業（木場潟西部地区矢崎工区）の計画を受けて平成 9 年 10 月の試掘調査によって新発見の遺跡として確認され、翌年に（財）石川県埋蔵文化財センターが発掘調査が行なわれた。この結果、縄文時代から中世にわたる遺構と遺物が出土したが、ほ場整備を原因とする関係上、台地を下りた砂地の一部を調査したのみであり、台地側に存在が推定される集落の縁辺部という位置づけにとどまった。また、この時は、見つかった遺構は中世以降のものと考えられており、推定されたのも中世の集落だった。

台地側に初めて調査が入ったのは平成 19 年であり、店舗併用住宅を原因として、小松市教育委員会が発掘調査を実施した。この時に、古墳時代中・後期～奈良時代にかけての遺物とともに、堅穴建物跡が 3 軒見つかり、台地上に集落跡が確認された初例となった。

2. 調査に至る経緯

本書で報告するのは、発掘調査としては通算 3 次となる。

平成 29 年 1 月 31 日付け協議があつた矢崎町地内の共同住宅建築の件は、矢崎宮の下遺跡の範囲内にあるが、大部分が既に土採取による削平を受けていた。試掘調査は、対象地の一部に残存する台地上で 2 月 3 日に行ない、埋蔵文化財が存在することを確認した。



第 25 図 矢崎宮の下遺跡 調査地の位置

共同住宅は、土採取された側のレベルで敷地が造成される計画であったため、残存する台地部分163m²を対象に発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法93条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成29年2月27日に着手した。なお、建築される共同住宅は個人所有のため、当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施するところだったが、協議を受けた時点で補助事業として増額申請できる時期を過ぎていたため、市単独費用枠で対応した。

3 調査の方法

土地境界のプレートまたは杭に原点(A-1)を設定して、土地境界を軸にして5m間隔のグリッドとした。

遺構の実測は、既存の4級基準点を与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

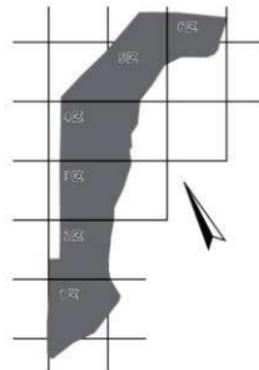
平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は50分の1と20分の1の併用、断面図と立面図は20分の1である。

4 調査の経過

重機による表土除去は、2月27日から翌日にわたって行ない、この時点で、調査区のほぼ中央に縄文土器片が多く出土する箇所があった。3月1日から作業員を投入して開始した発掘作業は、この縄文土器が集中した地点から南側にかけて開始したが、ここには遺構といえるプランが見出されなかつたが、カマドか炉と思われる焼土は確認された。

調査区の北側に作業が及ぶと、3月3日には古代のものと思われる竪穴建物のプランが見えてきて、カマドも残っており、しかも確認例としては初例となるL型カマドだった。

発掘調査は、この竪穴建物跡と調査区南側の掘立柱建物跡2棟の記録作業を中心に行ない、3月16日には全景撮影、この翌日から平面図作成を開始し、20日に完了した。台地部分の造成は法面工事で掘削してしまうことから、埋め戻しは行なわず、調査完了の状態のまま現地を建築主に引き渡した。



第26図 矢崎宮の下遺跡 3次グリッド配点図

第2節 遺構と遺物

1 遺構(第27~30図)

(1) 竪穴建物

SX01 表土除去の段階から縄文土器の集中があった位置に検出された円形プランの竪穴状遺構であり、中央に焼面がある。図上では竪穴建物として申し分ないが覆土はよくほぐれており、およそ竪穴建物のそれとは思われず、調査中は不明遺構とした。縄文土器の全てがここで出土したことから、耕地化されるまで竪穴の凹みが残り縄文土器が地表からも採集できる状態だったと推定される。

SI04 最初に検出されたのはL形カマドの煙道部分で、ここを手掛かりに方形プランを半ば強引に検出した。焚口の前面に段差があり、貼床層を剥がす形で竪穴プランを検出した格好になると思わ

れるが、貼床を調査中に確認できたわけではない。SK03は、調査中ずっと見えていたプランであり、SI04に付属する土坑か。L形カマドは煙道が短く、焚口が右に寄っている。なお、写真図版5では緩やかな法面が見えて拡張可能のように思われるかもしれないが、これは工事で設計されている法面の角度であり、調査範囲拡張は行なっていない。

(2) 挖立柱建物

SB01 梁行1間、桁行2間と推定される。P43～45は遺構精査の早い段階で見出されており、大きめのプランで目立つピットであり、これに対応するピットがP46～47しかないため、位置関係に幾らか疑問は残るがこれで1棟とした。柱間寸法は、梁行・桁行とも約2mだが、平面図上で建物規模は、梁行で約4.6m、桁行で約5.5mである。

SB02 長辺約3m、短辺約2.3mの建物としたが、梁行の中間寸法が大きめの傾向から、東西に長い建物の可能性がある。

(3) 土坑

SK01 略円形プランで掘方は漏斗状である。上部が削平されているとしても、井戸とするには掘方が浅い。

SK02 楕円形プランで掘方は筒状である。SI04のカマド脇の柱穴を検出していく過程でほぼ掘りつくしてしまい、土層の断面図はない。柱抜き取り穴か。

SK03 略円形プランで掘方が鉢状となる2基の土坑である。断面で切り合い関係は認められず、同時に掘られた複数の土坑か。SI04に付属すると考えてよいかもしれないが、調査時にその認識はなく、また、掘り始めで出土遺物を分けなかったために、土坑としての遺構番号は一つである。

SK04・SK05 それぞれ2基ずつの土坑の複合であり、略円形プランで掘方は鉢状である。調査中の不手際で断面図がないが、検出段階から掘り下げ作業中も切り合い関係は全くわからず、掘削後に埋め戻した土坑群と考えられる。SK04の土器は実測図の20・23・24であり、埋納状態での出土と考えられる。

SK06 写真のみの記録だが、25～27の土器が埋納状態で出土した。1基の土坑として調査し、今報告抄録もそれに従って数えるが、写真を見返す限りは4基程度のピットの複合の可能性があり、3つの土器はそれぞれ1基のピットに対応するようだ。

2 遺物（第31～34図）

(1) 繩文時代後期の遺物（1～19）

出土状況はよいとは言えないが、すべてSX01のプランが明らかになったエリアで出土したものであり、それなりに一括性があり、縄文時代後期中葉の酒見式の範疇に収まる資料である。

1～7は有文の深鉢形及び鉢形土器であり、沈線で区切られた縄文帯（3・5）、縄文を欠くが弧線で区切る文様（7）、丸い波頭の波状口縁（1～2）など、酒見式には東北系・関東系・西日本系に類似する土器が知られるが、これらの中では関東系の加曾利B2式系統の土器が最も類似する。

8～12は粗製の深鉢形土器である。8～9は紡錘形に条線文を重ねる。10・12は単節縄文の調整のみであり装飾は簡素である。また、サンプルは少ないが単節縄文の扱いは左右相半ばし、どちらかに偏ることはないようだ。

13～15は注口土器と思われる。13は波状の条線文、ほかは弧線で区切った磨消縄文または充填縄文で装飾されている。

その他、16は無文のミニチュア土器、17～19は有孔球状土製品である。17～18は沈線と列点で装飾されている。

(2) 古墳時代中期～後期の遺物（20～28）

20～23は壺形土器（釜）である。20・23の口縁部はくの字状、21～22は外反している。

24～27は高环の环部である。24のみ环部の稜は貼り足して強調された器形になっている。また、4点全てが埋納状態での出土であり、共通して脚部を丸ごと欠損している。

28は口縁部が小さく外反する塊である。

(3) 古代の遺物（29～41）

29～36は須恵器の食膳具であり、29は壺A、30～36は壺Bの蓋と身である。

37～38は須恵器の貯蔵具であり、37は壺の口頭部、38は平瓶である。

39～40は土師器の煮炊具である。39は壺の口縁部と思われ、40は小型の釜である。

41は土師器の食膳具であり、高环の脚部である。実測図上で表示できなかったが、环部は内黒処理されている。

第3節 まとめ

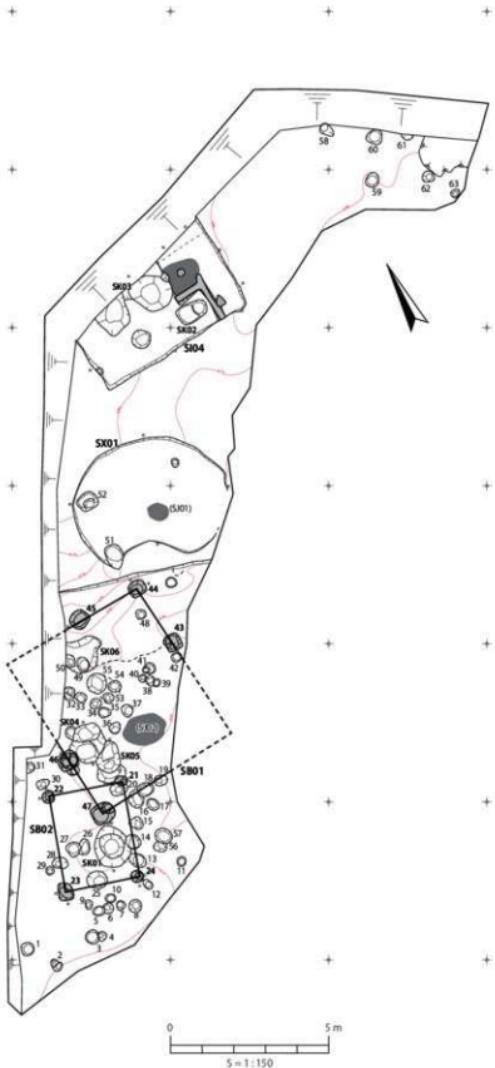
今調査では、小松市において調査例の乏しい縄文時代遺跡の貴重な資料を報告できた。遺構も遺物も十分な検討は出来なかったが、資料としては今後の研究に寄与することはできるだろう。

古墳時代についても、細長い調査区で埋納土坑に掘り当たった。建物跡の発見はなかったが、集落の中で祭祀的な領域であったと推定される。

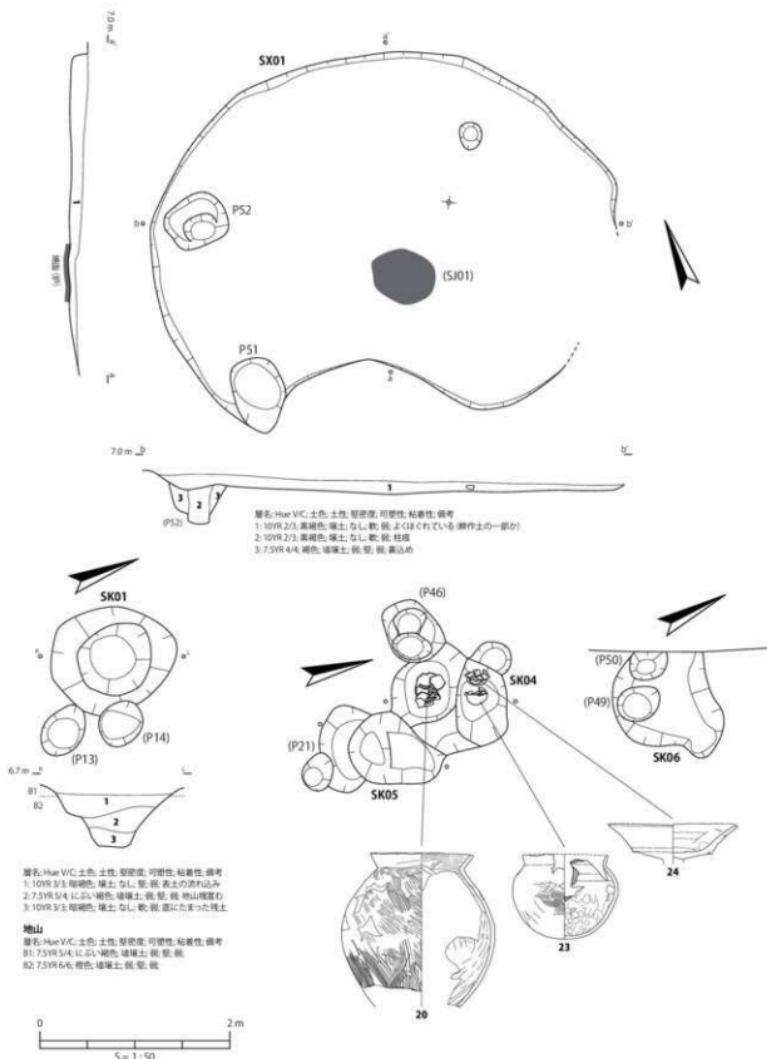
古代の遺物は少なかったが、先の第2次調査（第1次は県調査とする）で傍証的な推定のみだったL形カマドを初めて確認できた。床面ギリギリでの検出であり、L形カマド周辺の遺物は床面出土と見做してよいだろう。出土土器の編年的な検討が十分にできなかったのは今報告に係る他の2遺跡と同じだが、竪穴建物は、L形カマドの特徴から7世紀後半と考えられる。また掘立柱建物は、少なくともSBO1は主軸方位がS104とほぼ同じことを根拠に、同時期の建物と考えたい。

参考文献

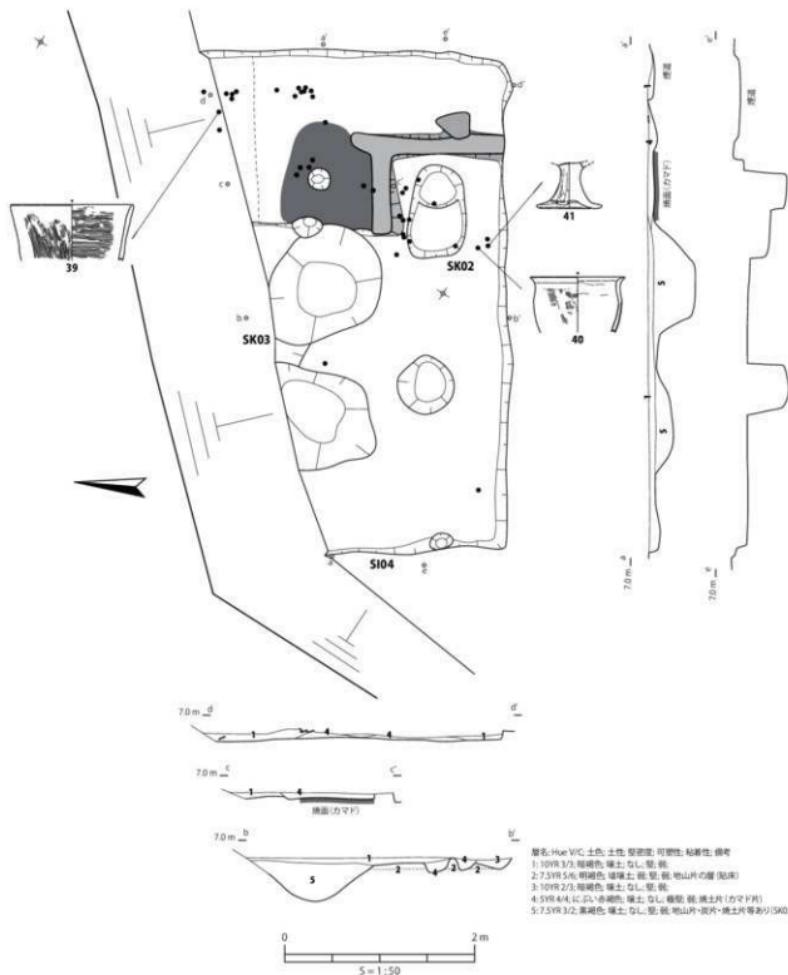
- イ 石川県立埋蔵文化財センター(1989)『金沢市米泉遺跡』
(財)石川県埋蔵文化財センター(1999)『矢崎宮の下遺跡』『石川県埋蔵文化財情報』2
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター(2008)『小松市矢崎宮の下遺跡』
- コ 小松市教育委員会(1991)『戸津古窯跡群I』,石川県
小松市教育委員会(1993)『戸津古窯跡群III』,石川県
小松市教育委員会(1993)『二ツ梨豆岡向山古窯跡』,石川県
小松市教育委員会(2000)『矢田借屋古墳群』,石川県
小松市教育委員会(2002)『吉竹遺跡』,石川県
小松市教育委員会(2005)『小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』二ツ梨豆岡向山窯跡,石川県
小松市教育委員会(2006)『小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』矢田借屋古墳群,石川県
小松市教育委員会(2007)『小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅹ』薬師遺跡,石川県
小松市教育委員会(2011)『小松市内遺跡発掘調査報告書VII』矢崎宮の下遺跡 薬師遺跡,石川県
小松市教育委員会(2014)『小松市内遺跡発掘調査報告書X』吉竹C遺跡,石川県
小松市埋蔵文化財センター(2017)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XII』二ツ梨豆岡向山窯跡群,石川県
小松市埋蔵文化財センター(2019)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XIV』二ツ梨豆岡向山窯跡群,石川県
- タ 田嶋 明人(1986)「漆町遺跡出土土器の編年の考察」『漆町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 田嶋 明人(1988)「古代編年軸の設定」『シンボジウム北陸古代土器研究の現状と課題(資料編)』北陸古代土器研究会・石川考古学研究会,石川県
- モ 望月 精司(2006)「額見町遺跡の古代竪穴建物構造と造り付けカマドについて」『額見町遺跡I』小松市教育委員会,石川県
望月 精司(2007)「三湖台地集落群の古代前半期土器様相」『額見町遺跡II』小松市教育委員会,石川県



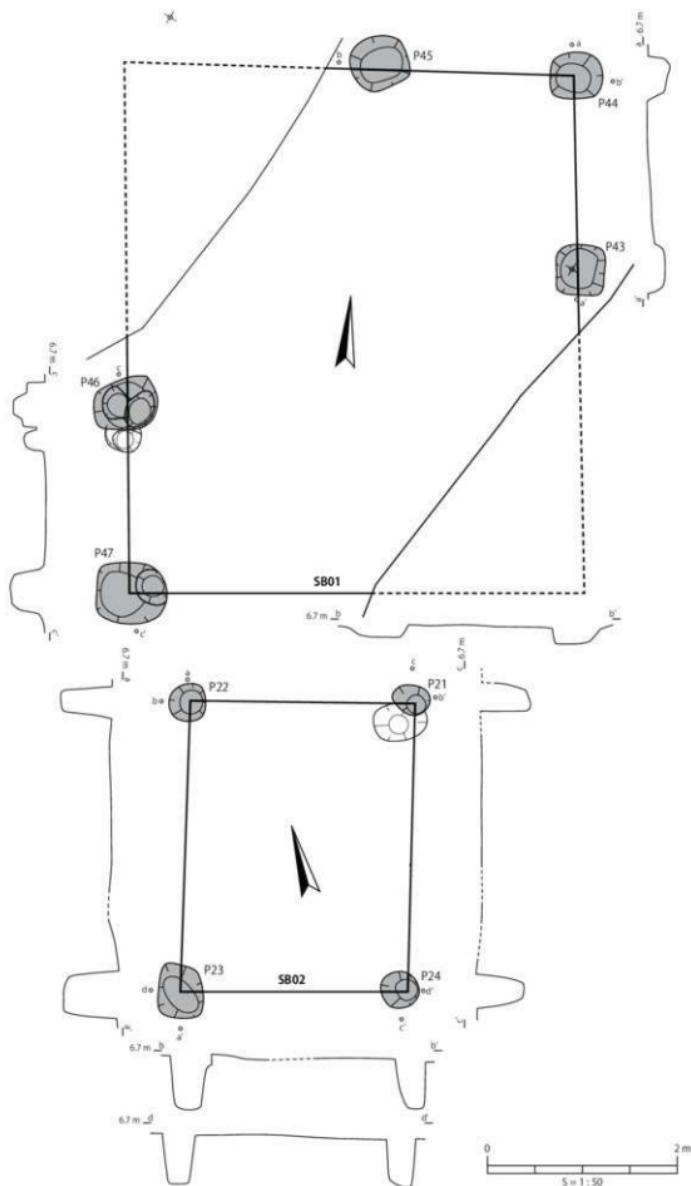
第27図 矢崎宮の下遺跡 3次 平面図



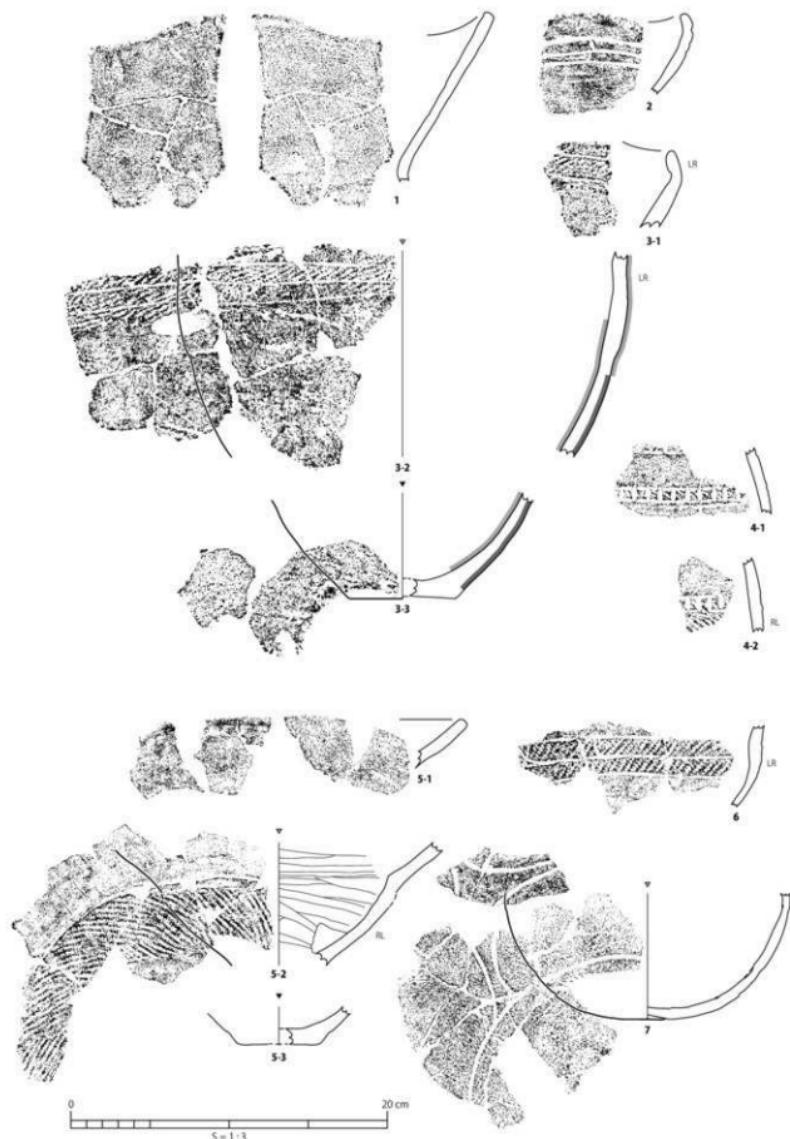
第28図 矢崎宮の下遺跡 遺構実測図 1



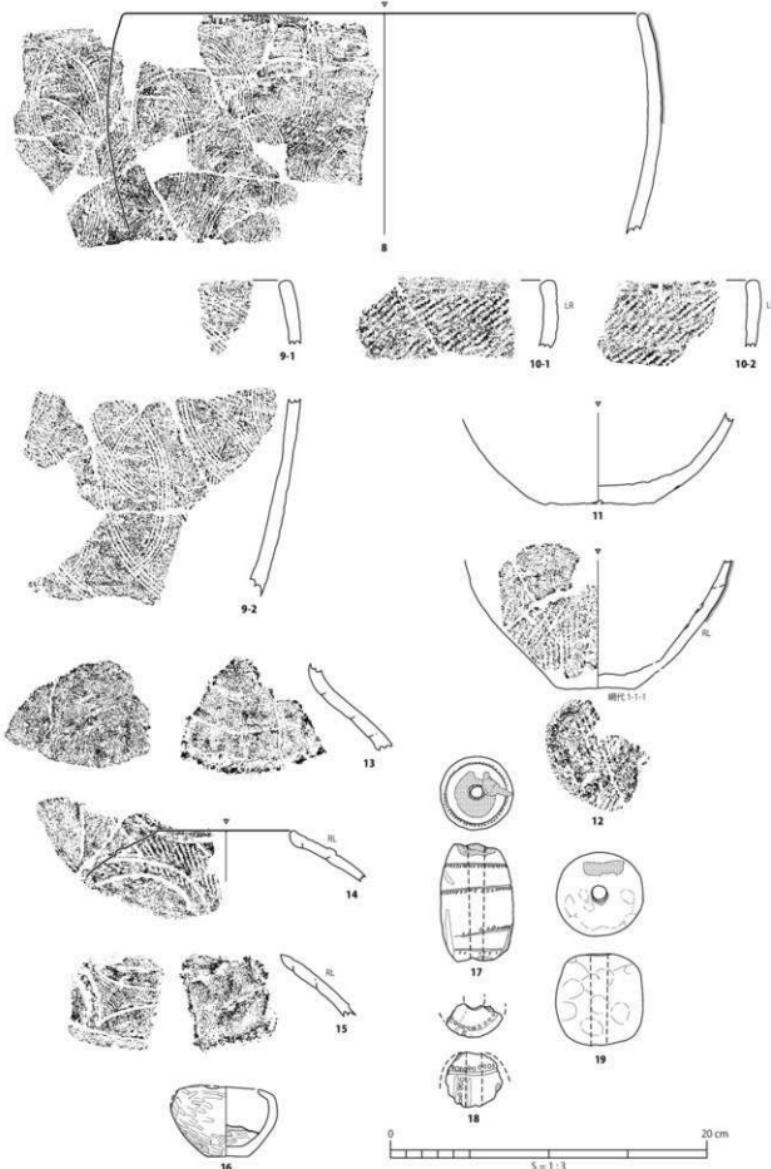
第29図 矢崎宮の下遺跡 遺構実測図2



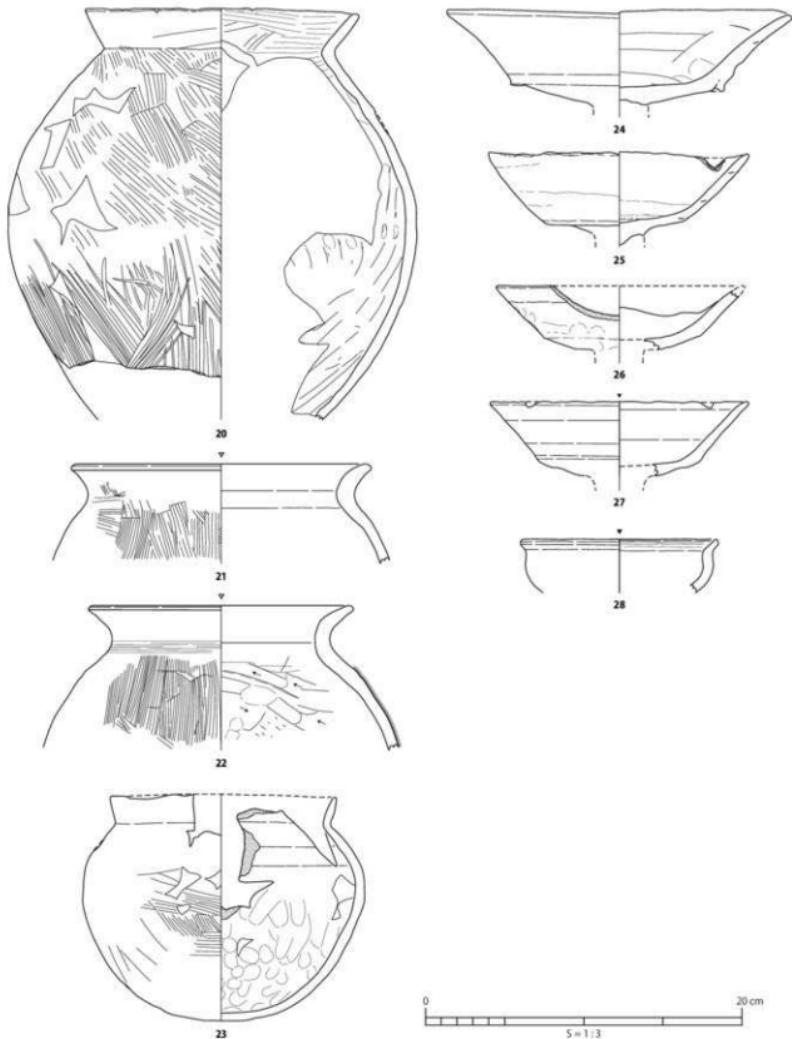
第30図 矢崎宮の下遺跡 遺構実測図3



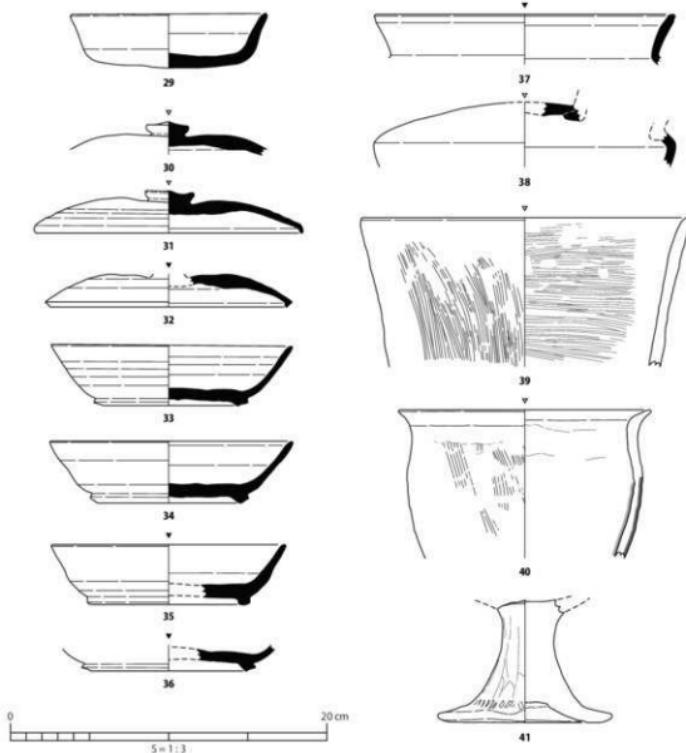
第31図 矢崎宮の下遺跡 出土遺物実測図1



第32図 矢崎宮の下遺跡 出土遺物実測図2



第33図 矢崎宮の下遺跡 出土遺物実測図3



第34図 矢崎宮の下遺跡 出土遺物実測図4

第4表 矢崎宮の下遺跡 出土遺物属性表

番号	測定	出土位置	分類	種別	寸法 / 様式	表層色調	胎土色調	備考
1	≤ 48	3rd SX01	織文土器	深鉢		7.5YR 8/4	2.5Y 5/1	酒見
2	≤ 76	3rd 3区	織文土器	深鉢		10YR 7/4	2.5Y 4/1	酒見
3	≤ 82	3rd 3区 3rd SX01	織文土器	深鉢	幅:19cm/、底:5cm/0.389	7.5YR 8/4	10YR 5/1	酒見
4	≤ 75	3rd 3区	織文土器	深鉢		10YR 8/2	10YR 4/1	酒見
5	≤ 81	3rd SX01	織文土器	深鉢	□:22cm/0.083、底:5cm/0.194	10YR 6/2	10YR 4/1	酒見
6	≤ 74	3rd 3区	織文土器	浅鉢		10YR 7/2	10YR 5/1	酒見
7	≤ 78	3rd 3区	織文土器	浅鉢	底:3cm/0.528	10YR 8/2	2.5Y 5/1	酒見
8	≤ 80	3rd SX01	織文土器	深鉢	□:33cm/0.194	10YR 8/4	10YR 8/2	酒見
9	≤ 79	3rd 3区	織文土器	深鉢		10YR 5/2	10YR 5/1	酒見
10	≤ 77	3rd 3区	織文土器	深鉢		10YR 8/3	2.5Y 5/1	酒見
11	≤ 50	3rd 3区 3rd SX01	織文土器	深鉢		10YR 7/4	10YR 7/4	酒見
12	≤ 51	3rd SX01	織文土器	深鉢		10YR 7/4	10YR 6/1	酒見
13	≤ 49	3rd SX01	織文土器	円筒		10YR 6/3	10YR 5/1	酒見
14	≤ 73	3rd 3区	織文土器	円筒	□:8cm/0.167	10YR 8/2	10YR 4/1	酒見
15	≤ 47	3rd SX01	織文土器	円筒		10YR 8/3	2.5Y 5/1	酒見
16	≤ 71	3rd 3区	織文土器製品	小型土器	□:4.0cm/0.389、幅:6.7cm/0.667、底:2.6cm/1.000、高:4.5cm	10YR 5/2	2.5YR 4/1	
17	≤ 69	3rd SX01	織文土器製品	有孔球状	長:7.5cm、径:4.5cm、孔:0.9cm、重:146.47g	10YR 8/4	10YR 8/4	
18	≤ 68	3rd 3区	織文土器製品	有孔球状	長:12.70g	10YR 7/2	2.5Y 4/1	
19	≤ 70	3rd SX01	織文土器製品	有孔球状	長:5.8cm、径:4.5cm、孔:0.9cm、重:172.15g	10YR 8/3		
20	≤ 63	3rd SX04 #3	土師器	盤	□:11.7cm/1.000、底:14cm/1.000、幅:26cm/-	10YR 8/3	10YR 7/3	古墳中～後期
21	≤ 44	3rd SK02	土師器	盤	□:18cm/0.208、底:16cm/0.250	7.5YR 8/4	7.5YR 8/4	古墳中～後期
22	≤ 45	3rd SK02	土師器	盤	□:17cm/0.153、底:14cm/0.167	7.5YR 7/4	7.5YR 8/3	古墳中～後期
23	≤ 72	3rd SK04 #2	土師器	小型蓋	□:14cm/0.694、底:13cm/0.889、幅:18cm/-、高:14.3cm	10YR 6/2	9YR 6/4	
24	≤ 64	3rd SK04 #1	土師器	高环	□:22cm/0.917	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳中～後期
25	≤ 65	3rd SK06	土師器	高环	□:16cm/0.944	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳中～後期
26	≤ 66	3rd SK06	土師器	高环	□:16cm/0.250	5YR 7/6	7.5YR 8/4	古墳中～後期
27	≤ 67	3rd SK06	土師器	高环	□:16cm/0.556	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳中～後期
28	≤ 46	3rd 5区	土師器	壺	□:12.5cm/0.167、底:11.8cm/0.194	7.5YR 6/4	7.5YR 8/6	古墳中～後期
29	≤ 56	3rd 4区	縹鹿器	壺	□:12cm/0.667、底:10cm/1.000、高:3.4cm	2.5Y 7/1	10YR 6/2	
30	≤ 58	3rd 4区 3rd SD04	縹鹿器	壺(直)		N 6/0	10YR 7/2	
31	≤ 62	3rd SK03	縹鹿器	壺(直)	□:17cm/0.056、高:2.6cm	2.5Y 6/1	10YR 7/3	7c 後半～8c 前半
32	≤ 57	3rd 4区	縹鹿器	壺(直)	□:15cm/0.097	2.5Y 6/1	10YR 7/2	7c 後半～8c 前半
33	≤ 53	3rd SK02	縹鹿器	壺(身)	□:15cm/1.000、台:10cm/1.000、高:4.9cm	N 7/0		
34	≤ 54	3rd SK04 3rd SK02	縹鹿器	壺(身)	□:15cm/0.041、台:10cm/0.917、高:3.9cm	2.5X 6/1	10YR 7/4	
35	≤ 59	3rd SK04	縹鹿器	壺(身)	□:15cm/0.194、台:10cm/0.361、高:3.8cm	2.5Y 7/1	10YR 7/2	
36	≤ 60	3rd SK04	縹鹿器	壺(身)	□:10cm/0.361	5Y 7/1	10YR 7/3	
37	≤ 55	3rd SK04 3rd SK02	縹鹿器	壺	□:19cm/0.319、底:17cm/0.347	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
38	≤ 61	3rd 4区 3rd SK04	縹鹿器	平腹	□:19cm/0.333	2.5Y 7/1	10YR 7/2	
39	≤ 43	3rd SK04 #35	土師器	瓶	□:29cm/0.139	7.5YR 7/4	10YR 8/3	7c 後半～8c 前半
40	≤ 42	3rd SK04 #2	土師器	小釜	□:16cm/0.139、底:14cm/0.167	10YR 6/3	10YR 8/3	7c 後半～8c 前半
41	≤ 63	3rd SK04 #1	土師器	高环	周:11cm/1.000	7.5YR 8/4、(内黒)	10YR 8/2	7c 後半～8c 前半



SI14 (作業状況)



SI15 (作業状況)



SI14



SI15



SB13



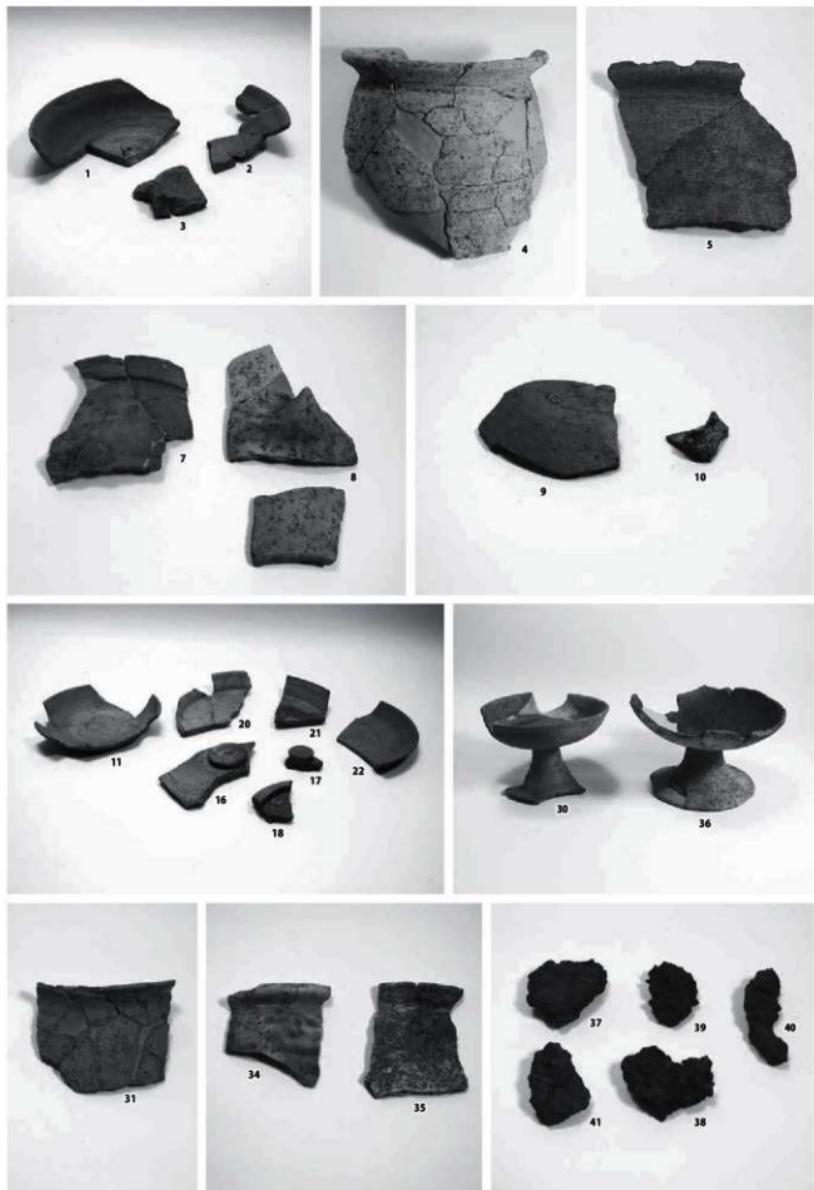
SK29



中学生の職場体験

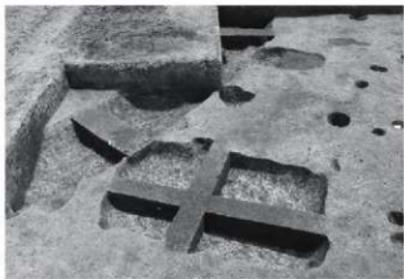


14次調査区





4次調査区(作業状況)



SD17 SK05 SK06



4次調査区



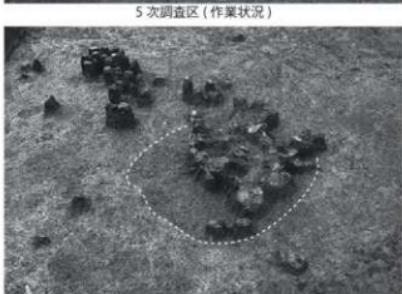
SD17 SK05 SK06



5次調査区(作業状況)



SK09 SK08

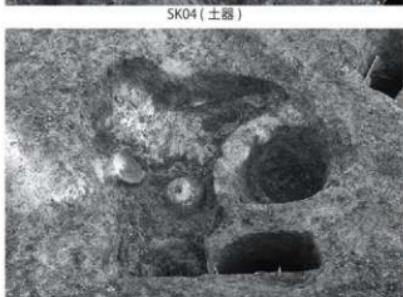
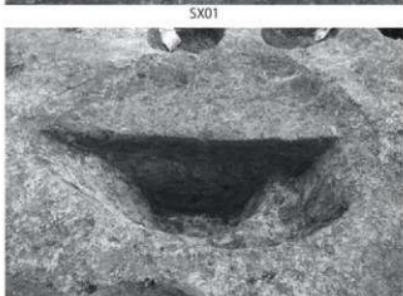


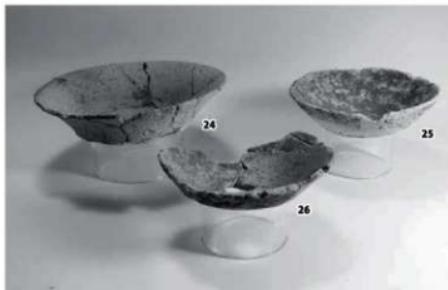
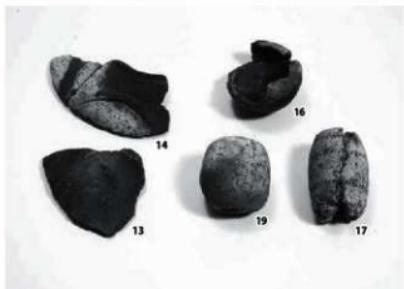
土器集中(SK07面上)



SK07







報告書抄録

ふりがな	こまつしないいせきはくつちょうさほうこくしょ 15						
書名	小松市内遺跡発掘調査報告書 XV						
副書名	薬師遺跡・島遺跡・矢崎宮の下遺跡						
巻次							
編・著者名	宮田 明						
編集機関	石川県小松市埋蔵文化財センター						
所在地	〒923-0075 石川県小松市原町ト 77 番地 8 TEL (0761) 47-5713						
発行年月日	西暦 2020 年 3 月 31 日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'\"/>	東経 °'\"/>	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
薬師	いしかわけん こまつし 石川県小松市 やくしまち 矢崎町	17203	318100	36° 20' 09"	136° 26' 09"	2015. 7.21 ~ 2015. 8.18	123	個人住宅
				36° 22' 12"	136° 26' 14"	2015.10.19 ~ 2015.11.20	192	店舗併用住宅
				36° 22' 12"	136° 26' 15"	2017. 1.10 ~ 2017. 1.31	190	個人住宅
島	いしかわけん こまつし 石川県小松市 しままち 島町	17203	324900	36° 20' 53"	136° 25' 51"	2016. 5.16 ~ 2016. 5.27	54	個人住宅
				36° 20' 54"	136° 25' 50"	2016. 5.24 ~ 2016. 6.10	159	個人住宅
矢崎宮の下	いしかわけん こまつし 石川県小松市 やさきみやまち 矢崎町	17203	319000	36° 21' 47"	136° 25' 58"	2017. 2.27 ~ 2017. 3.24	163	共同住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
薬師	集落	古墳 古代	竪穴建物 2、掘立柱 建物 1、土坑 7	須恵器、土師器、鐵冶津	
要約					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島	集落	弥生 古墳 古代	溝 3、土坑 4	弥生土器、玉作 須恵器、土師器、鐵冶津	
要約					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢崎宮の下	集落	縄文 古墳 古代	竪穴状遺構 1、 竪穴建物 1、掘立柱 建物 2、土坑 9	縄文土器、土製品、 須恵器、土師器	
要約					

小松市内遺跡発掘調査報告書 XV

薬師遺跡・島遺跡・矢崎宮の下遺跡

令和 2 年 3 月 31 日 発行

編集・発行	小松市埋蔵文化財センター	
	石川県小松市原町ト 77-8	TEL (0761) 47-5713
印 刷	株式会社ゲンダ美術印刷	
	石川県小松市丸の内町 2-32	TEL (0761) 22-7031
